

2024（令和6）年度
事業計画書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

2024 年度事業計画目次

	ページ
◆ 法 人	1
神戸聖隷歴史資料館	8
◆ 但馬地区	
平生園	10
わらしべ	14
さくらの苑	17
恵生園	20
真生園	24
和生園	28
北但広域療育センター	32
エスポワールこじか	35
◆ 神戸地区	
神戸聖生園	39
グループホームせいれいやまて	42
グループホームたいのはた東	44
神戸愛生園	46
きたすま障害者相談支援センター	49
神戸聖隷総合相談センター	53
神戸友生園	57
グループホーム南落合	61
神戸光生園	63
グループホームみなみたもん	67
グループホームふくだ	69
神戸明生園	71
ケアホームきたすま	74
神戸市立ワークセンターひょうご	76
しごとサポート中部	
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者雇用就業・定着拡大推進事業	
グループホームアリエッタ北須磨	82
ひょうご障害者相談支援センター	84
神戸市障害者基幹相談支援センター	
神戸市発達障害者中部相談窓口	
ひょうごデイサービスセンター	89
神戸市立自立センターひょうご	93
ワークセンターわかまつ	97
せいれいやさかだい	100
グループホームのぞみ	104
◆ 事業計画別表 1 (実績目標)	108
◆ 事業計画別表 2 (設備整備計画)	110

2024年度 事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
理事長 水野 雄二

「涙と共に種を蒔く人は喜びの歌と共に刈り入れる。」

(詩編 126:5)

はじめに

2024年は、元旦に発災した能登半島地震によって衝撃的に幕を明けました。私たちは阪神淡路大震災や2004年台風による土石流被害を経験した法人として、能登の人々への深い同情と哀悼の意を表し、可能な支援を提供すると共に一日も早い復旧と復興を祈ります。

引き続き新型コロナウイルスやインフルエンザなど感染症への不安に加えて、ウクライナ戦争やガザ侵攻による漠然とした平和への不安、巨大地震やメガ台風への不安、急激な物価高騰による生活不安など、私たちを取り巻く環境は多くの不安を抱えたままで2024年度を迎えます。そのような社会において、全国の社会福祉法人は等しくそのあり様を問われています。多様な福祉課題が表出する地域共生社会をどのように実現するか、安定した財政を守り持続可能な法人としてどのように維持するか、先を見据えた人材確保と育成をどのように図るかなど、多くの課題に対応することが求められています。

神戸聖隷福祉事業団は、2023年度から2025年度までの3か年を第5期中期計画の下で事業を進めています。そのビジョンに「私たちは、今日までの歩みに誇りをもって地域社会・利用者・職員のしあわせを次の半世紀につないでいきます」を掲げ、来る2025年の創業50年に向かっていきます。去る2023年度は新たにされた理事体制の下、施設運営の充実を第一のテーマとし、各施設の自己完結を目指し歩んだ1年でした。常任理事をグループサポーターとした応援協力体制を整え、施設それぞれの中期計画が完遂できるように連絡、相談の関係を強化してきましたが、本年度もその協力体制を更に充実し、施設計画を後押ししていきます。

そして、2023年度から新たに組織された5つの委員会を中心に法人課題についても引き続き取り組んでいきます。「経営諮問委員会」、「QOL委員会」、「財務委員会」、「人事委員会」、「広報委員会」それぞれに明確にされた法人課題の改善に向かって行動していきます。特に、2024年は政府による介護報酬、障害福祉サービス等報酬の報酬改定の年で、大きな影響を受けることとなります。地域社会に不可欠な社会資源としての法人の維持発展のために、この報酬改定に対峙していきます。

世界、日本、地域社会にあって、戦争や災害、また経済環境の変化などによって、多くの人々が、生きづらさや悲しみ、恐怖や不安を持ち続け、涙を流しておられます。私たちにできることは限られていますが、それでも愛に満ちた支援によって、多くの人々が笑顔を取り戻し、希望を失わないで生活できるように努力を続けていきます。「涙と共に種を蒔く人は喜びの歌と共に刈り入れる。」生きる喜びを感じ合える社会、施設、人間関係をめざして2024年度の歩みを進めていきます。

第5期中期計画に基づく委員会事業計画

財務委員会 2024年度事業計画

新型コロナウイルスについては昨年5月より2類相当から5類へ移行し、以前の平静を取り戻すかに見えましたが、法人内各所でのクラスター発生や利用自粛により給付費収入が減少する中、継続した感染防止対策を取りつつも、安全で安心してご利用いただける体制確保に努め、安定した事業運営を目指します。

今年度の報酬改定では、質の高いケアマネジメントによる必要なサービスを切れ目なく提供するための、介護職員の処遇改善による人材確保や、生産性向上による職場環境の改善を基本として基本報酬や加算算定が見直されています。事業所間での情報共有を密にすることで適正な給付費収入の確保に努めます。

また、これまで各事業が提供しているサービス全般についての検証を行い、より必要とされるサービスの抽出と、年度を通して安定した実績を確保するためのシミュレーションを行うことで、課題となる経営資源等については各委員会とも連携し、最善の改善策を探るとともに、各事業管理者との課題共有とその改善に努めます。

職員の働き方については人事・給与制度の抜本的な見直しも視野に入れ、財務的な課題を踏まえながらも職員の就労意欲を高めるべく、最善な職員処遇の方針を確立します。

QOL委員会 2024年度事業計画

第5期QOL委員会の1年目は、その活動の土台作り程度で過ぎてしまいました。2年目の今年度は活動イメージを実践する年にします。

QOL専門研修として「法人財産（法人内職員）を活用した知識などの伝授を行い、職員のスキルアップと利用者支援の質の向上を図る」を目的に「相談」「就労」「知的」「児童」「介護」の5つの分野で法人職員による法人職員への研修を実施します。また、すでにサービス向上に向け毎年取り組んでいる虐待防止チェックリスト、満足度調査などの結果の検証並びに評価を行い、施設の傾向と対策を各施設で対応できるように構築し、サービス向上につながる体制作りが進むよう取り組みます。

福祉機器は第4期中期計画の社会福祉充実計画においてある程度導入されています。今後は導入した機器についてその評価を行うと共に必要な場所に有効な機器の導入が出来るよう情報提供を進めます。

施設改修計画における付加価値の検討につきましては、各施設軽微な修繕に留まりますので今年度は将来的に改修などが必要となる施設等を確認し共有します。

各事業の業務継続計画(BCP)は作成できましたが、実際に利用可能な状況とは言えないため、地域の連携を含めて有効な計画になるよう進めていきます。

その他、接遇アップチームでは、接遇アップキャンペーンの継続と創業50周年記念式典記念品としての卓上カレンダーを制作します。

成年後見制度活用推進委員会は、「制度の理解促進と普及、ご家族への情報提供」を目的に現場課長を中心に、今年度も人材育成活動、広報活動、調査活動を継続して行います。

また、統合事務の在り方について、まず但馬地区から少数事務員による事務作業の集中化の試行を行い、その課題の抽出と対策の検討を行います。

人事委員会 2024年度事業計画

第5期中期計画の2年目を迎えるにあたり、昨年度は「職場の活性化」に関わる各計画について全く着手できていなかったため、それらの計画に対し優先順位をつけて今年度に取り組むべき内容について明確にして上位計画から着手していきます。具体的には事務職員の業務マニュアルの策定による「業務の標準化」と管理職の意識改革や業務の見直しなどによって超過勤務を削減することで「ワークライフバランスの向上」を目指します。

「人材の確保・育成・定着」のうち福祉人材の確保については、昨年度の学校訪問の件数が以前と比べ大幅に減少してしまったことの反省を踏まえ、担当者を中心としながらも各施設からの協力も得られるように訪問スケジュールを早めに作成し計画的に訪問を実施する体制を作ります。また、学校訪問のほか施設現場の協力のもと各種就職フェア等のイベントなどに若手の職員を中心に積極的に参加してもらい求職者（学生）に直接福祉の魅力を伝える場を増やし、学生に対し親和性を高めることで応募へ繋げていくことを図ります。このことは職員側にとってもそれぞれの仕事の見直しとやりがいを再確認する機会にもなり、職員の育成や定着にも繋がると考えます。

また育成としての階層別の内部研修については引き続き継続しますが、一部の研修がQOL委員会の担当に移行するなど基本的にはQOLと人材育成は密接に関わるため今後もQOL委員会との連携を意識しながら取り組みを進めていきます。

最後に人材の定着については法人の制度などの仕組みの面と個々の職員と組織全体が成長を実感し一体感を得られる内面的な面の両方が必要であると考えます。職員のエンゲージメントを高めるために上述の「職場の活性化」によるメリハリのある環境づくりと職員一人ひとりに対する目配りと関わりによる関係づくりにむけて取り組みを進めていきます。

広報委員会 2024年度事業計画

「地域公益の視点」の『地域と共に歩む法人へ』として「あったかプラザ」はこれまでにさまざまな地域貢献の取り組みを行っており、今年度は神戸地区の「Tunagari」を地域の小学生を対象とした「こどもの居場所・学習支援、食事支援」の場とする取り組みを行います。神戸聖隷総合相談センターが主となり友が丘地区の施設長が協力してまずは学校の長期休暇期間に実施します。定着すれば対象者や回数を増やしていく構想を持っています。地域の潜在的な課題の掘り起こしに繋がればと考えます。各地区の「ほっとかへんネット」の参加・取り組みは順調に進んでおり更に法人としての協力体制を整えます。

2024年1月、能登半島に大きな災害が起こり各施設にも上部団体から派遣要請がありました。実際に派遣に至ったのは1施設のみでしたが、多くの施設が派遣登録を行いました。今後も同様なケースが起こった場合に、より迅速に対応できるよう各施設で年度毎の派遣要員の選定を行い、職員の事情変更に伴って随時更新と情報共有が出来る体制を構築します。また、「予期せずして妊産婦となった方」への就労支援について兵庫県経営協が兵庫県と連携協定を締結している取り組みに当法人が登録していますが、就労可能な事業所の選定と、対象となる妊産婦を支援している機関との連携を強化し、積極的な受入が出来るような体制を構築します。法人ホームページのリニューアルは今年度早々に着手し、各施設の更新もタイムリーに行えるよう支援します。

第5期中期計画と推進策（財務委員会）

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
コロナ減収からの脱却（安定的な事業収入の確保） （財務の視点）	各施設の収支状況の分析と運営方針の検証	①各事業の目標値に対する月次実績チェック ②月次実績より課題を理事・施設長で情報共有	①月次目標達成 ②課題の理解と把握
		①経常増減差額率が低い施設の経営分析参考指標との比較による課題抽出 ②経常増減差額率が低い施設の運営改善へ担当理事と施設長が取組	①経常増減差額率の増加 ②経常増減差額率より経営改善の方針決定
	適正な積立金の確保	①決算数値の把握 ②長期的な修繕（建替）・設備更新の計画を担当理事と施設長が策定し地区で共有	①予算達成 ②必要な積立金額と年間積立金の算出
職員処遇の更なる充実 （財務の視点）	管理職時間外手当の対応	①管理職研修による意識改革への取組み ②超過勤務時間の把握 ③管理職の業務の見直し	①管理職の意識改革 ②③超過勤務削減
	リーダー手当の検討	①リーダー手当支給に関する妥当性の検証	①支給の是非の判断
定年延長対策 （財務の視点）	70歳までの就業機会確保（努力義務）への対応	①職員意識調査の実施 ②社労士の助言をもとに経営諮問委員会にて検討	①職員意識の把握 ②基本方針の決定

第5期中期計画と推進策（QOL委員会）

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
最適な支援の提供 （顧客の視点）	神戸聖隷品質のサービスの向上	①QOL 専門研修の実施 ②サービスの評価と改善策実施	①QOL 専門チームによる知識・技術を幅広く伝授 ②QOL 向上に向けた取り組みへの評価と施設内 PDCA 体制の構築
基幹施設の老朽化対策 （業務プロセスの視点）	付加価値のある施設改修計画の策定	地区単位での改修計画の確認	改修計画の共有
事業の確実な継続 （業務プロセスの視点）	法人内 BCP の施設事業所間協力体制の構築	①業務継続計画（BCP）更新継続 ②法人内協力体制取り組み	地域連携を取り入れた現実的な BCP 策定

第5期中期計画と推進策（人事委員会）

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
職場（施設）の活性化 （学習と成長の視点）	管理職のワークライフバランスの向上	管理職を対象としたマネジメント研修の実施と管理職業務の見直し	管理職の超過勤務時間数対前年度比10%削減
	業務の標準化	事務職員業務マニュアルの策定	マニュアルの完成
人材育成・確保・定着（学習と成長の視点）	採用戦略による採用活動の実行	①採用活動の実施 ②内定者フォローの実施 ③インターンシップの実施	①述べ50回/年超の学校訪問の実施と予定人数の確保 ②内定後の辞退者0 ③インターンシップの実施
	研修による人材育成の強化	①研修担当チームの編成 ②育成プランの検討と策定 ③実習担当者を対象とした研修の実施	①チームの編成 ②分野別育成プランの策定 ③実習担当者の指導力向上
	女性管理職の育成	主任級女性職員の研修参加とロールモデルの検討	研修への派遣と様々なロールモデルの提示
	子育て・介護世代応援プランの策定	役職者を中心とした検討委員会の発足	子育て・介護世代に必要な支援内容の整理
	早期（入職後3年以内）離職防止のための対策実施	①現状の認識と課題の共有（法人全体と各配属先） ②メンターのサポート	①過去5年間の新規正規採用職員の離職状況の調査と課題の整理 ②メンターのサポート体制の確立

第5期中期計画と推進策（広報委員会）

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
地域と共に歩む法人へ （地域公益の視点）	Tunagari、神戸聖隷総合相談センターの機能発揮	①「こどもの居場所・学習支援・食事支援」を小学校の長期休暇（春・夏・冬）に6回開催（1次計画の実施）	Tunagari・神戸聖隷総合相談センターの存在周知と潜在的課題への対応
	自然災害時等の対外協力活動の展開・各地区ほかへんネットへの協力（DWAT等協力を含む）	①各地区での活動把握 ②各施設の対外協力活動体制の構築（年度毎の派遣要員の選定）及び随時更新と情報共有	自然災害発生時において即時対応可能な体制構築
一人も残さない支援 （地域公益の視点）	法人内多種多様な分野が集結し、地域住民の派生的な支援要請に応じる	①法人内地区連絡会での課題共有及び対応検討 ②法人内各相談支援事業からの情報共有及び対応検討	法人内地域課題に対する対応力強化
	課題を抱える地域住民の自立と社会参加支援受入れ	①課題を抱える妊産婦受入れ可能な就労場所の選定 ②支援機関との連携	妊産婦受入れ事業フローを作成、内部受入れ体制強化
	洗足・職員報の発行（各年2回）	①洗足（法人広報誌）・職員報の目的を認識しタイムリーな記事を掲載し発行を継続	洗足は法人の広報として記録や報告、職員報は職員間の情報共有とモチベーションアップ
	法人ホームページのリニューアルと適時の更新	①広報ツールとして施設利用促進・人材採用に効果的な内容に更新	アクセス数の向上

2024年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖隷歴史資料館
管理者 久木田 憲彦

神戸聖隷歴史資料館の基本方針

1. 収集・整理・保存を通して、創始の思いを学び、そして後世に伝えます。
2. 調査研究を通して法人の特色を発信します。
3. 歴史資料の展示を職員研修に積極的に活用して、職員のモチベーションを高めます。
4. 社会福祉事業の不透明な将来に向けた逞しい展開を考える場にします。

第5期中期計画のビジョン

私たちは 今日までの歩みに誇りをもって 地域社会・利用者・職員のしあわせを 次の半世紀につないでいきます

2024年度の事業計画について

神戸聖隷歴史資料館は創業50周年を迎える2025年度に向け、改めて地域社会との連携、広報活動に力を入れるとともに、保管している資料の展示活用に努めます。

理念の視点では、開設以来変更されていなかったレイアウトを見直し、創業50周年にふさわしい展示資料への入れ替えを検討します。

ギャラリーの利用促進については、新型コロナウイルス感染症の影響も払拭されていない状況ですが、各施設での創作活動も再開する中で定期的な作品展示を進めていきます。また、法人ホームページにて歴史資料館の情報を発信することで、より多くの方々に作品を展示いただくとともに、より多くの地域の方々に観覧していただけるよう、積極的な広報活動を行います。

人材育成の視点では、歴史勉強会・職員研修等にて法人の歴史に関する学習機会を提供するとともに、地域の子供たちへの継続したアプローチにより、法人はもとより福祉への理解を深められるように努めます。

地域貢献の視点では、竹田中町区の「指定緊急避難場所」として、中町区との関係性を引き続き強化し、地域の防災に協力できるよう努めていきます。集会・イベント会場としての場所開放等、地域の方々が気軽に足を運ぶことのできる機会を提供します。

1. 事業概要

開設年月日：2016年11月23日

活動内容

- (1) 歴史資料の收拾整理保存
- (2) 調査研究
- (3) 公開
- (4) 地域連携・協働
- (5) 管理運営

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画
広報活動の充実 歴史資料館の	あったかプラザとの連携	①両事業所にパンフレットの設置、展示案内を掲示
		①両事業所の担当者が情報を共有 ②出展者に互いの施設を紹介し、両施設で展示を実施
	ギャラリーの利用促進	①地域住民・関係者への広報活動 ②施設利用者の作品展を開催し、施設利用者の活動を発信
	インターネットを活用した広報活動	①ホームページにて最新情報を発信
資料の収集・保管・展示	工事関係書類・広報誌の管理	①工事関係書類（契約書等）、広報誌等を適切に保存管理する ②展示資料の入れ替え

(2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画
学習機会の提供	法人の歴史勉強会等の開催	①歴史勉強会・職員研修の開催の場を提供
	地域児童へのアプローチ	①サイエンスキャンプの継続実施 ②イベント再開の検討・実施

(3) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画
地域社会との連携	地域防災への協力	①竹田中町区の「指定緊急避難場所」として地域防災に協力
	場所の開放	①地域住民の皆様の集会・イベント等会場として場所を開放

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 平生園

施設長 太田 敦子

平生園の基本方針

1. ご利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. ご利用者を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. ご利用者によすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（活きる）施設を目指します。

第5期中期計画のビジョン

平生園に関わる全ての人に、ゆとりある豊かな暮らしの提供を目指します。

2024 年度の事業計画について

今年4月の報酬改定により、協力医療機関との連携体制の構築、緊急時の対応方法の定期的な見直し、感染症対応力の向上など医療への更なる強化が求められています。これまでの医療体制等を再確認し必要な対応をいたします。また、前年度からの重点実施項目を継続し学習と成長の視点、顧客の視点に重点をおき取り組みます。学習と成長の視点「職員（外国人労働者）の確保・育成」では、特に特定技能の方々は平生園に欠かせない人材となっており、今年度は一人で担う夜勤業務の習得や日本語能力の向上、記録、専門知識などの学びを深めるため研修等へも参加いたします。また、次期特定技能の受入れの検討や必要に応じ準備なども行い、人材確保に向け進めます。顧客の視点では、「ICT機器を活用推進しサービスの質の維持・向上を図る」を継続。安心安全な支援の強化のために必要な機器の選定と現在導入している機器を活用し個々に合わせた運用を行い、データ活用によるケアの質の改善にも取り組みます。眠りスキャンは追加導入を行い支援の充実を図ります。「意向に沿ったサービスの提供」については、感染症によりまだ個別支援は施設内での実施が多いですが、新たに「ニーズ聞き取り調査シート」を作成しご利用者個々の思いを丁寧に聞き取り、希望を叶える支援に努めます。また、そのためにアセスメント能力向上研修にも参加し、ご利用者、ご家族、職員との良好な関係性を構築し満足していただける支援に繋げていきます。

設備面に関しては、配管の水漏れなどの修繕はその都度対応いたしますが、非常用発電機の経年劣化に伴う指摘事項などについて早期に対応し、今後補助金等についても情報収集し次の対応に備えていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1991年11月11日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム（第1種）	介護老人福祉施設	60名	要介護高齢者	1991年11月11日
老人短期入所事業（第2種）	短期入所生活介護	空床型	要介護・要支援 高齢者	2013年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
目標管理制度で 職能向上を目指す	目標管理面談の 実施	① 毎月の面談による進捗確 認と育成	・毎月の面談実施と職 員の成長
エルダー制度の 再構築	指導方法の再確 認とエルダー制 度の運用	① 指導方法の再確認 ② 学習会の実施・育成 ③ リーダー研修等への参加 エルダーの育成 ④ 使用書式の更新 ⑤ エルダー制度手順書の作成	・マニュアルの更新 ・定期的な振り返り実 施 ・エルダーの育成（2 名） ・使用書式の更新 ・手順書の作成
職員(外国人労働 者)の確保・育成	計画的な人材確 保と育成	① 指導計画の作成と進捗管 理 ② 職員の確保 ③ 特定技能1号の育成	・単独での夜勤業務 ・日本語能力の向上
職員のスキルの 向上	短時間研修の導 入検討(導入)・伝 達研修	① 短時間研修の検討、導入 ② 伝達研修の実施 ③ 身体拘束、虐待防止への取 り組み ④ 但馬長寿の郷 PT との連 携・指導受講（4回/年）	・専門性（知識・技術） の向上

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
医療専門職の確 保・維持・強化	医務会議の開催	① 医務会議の開催（4回/年） ② 施設情報共有と課題の抽 出	・医務会議を開催し情 報共有 ・感染症対応の確立 （ゾーンニング）
業務の効率化と 安全を重視した マニュアル作 成・更新	マニュアルの見 直し業務の無駄 をなくす	① マニュアルの更新(1回/ 年) ② 安全対策の検討・実施	・マニュアルの更新と 活用 ・BCPの見直し”
広報活動の継続 と積極的発信	広報誌、フェース ブック、ホームペ ージの更新によ る魅力ある施設 の情報の発信	① ホームページの更新と Facebookの投稿 ② 広報誌発行（2回/年）	・広報誌の発行と情報 発信 ・ホームページの確 認・更新

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
ICT 機器の活用推進しサービスの質の維持、向上を図る	ICT 機器の活用と新たな機器の導入・検討(事故減少、職員の連携強化)	① ICT 機器の活用推進(設置方法のマニュアル作成と管理者の育成) ② 新機器導入検討(見守りカメラ、インカム等) ③ 眠りスキャン3台追加 ④ 事故、ヒヤリの検証と情報共有	・設置マニュアルの完成 ・新規機器導入の検討完了 ・眠りスキャン3台追加と設置等管理者の増加 ・事故の減少
看取り介護の充実	手法の検証と強化の推進	① 看取りの手順書の確認・デスカンファレンス等による検証の実施 ② 看取り研修の実施(1回/年)	・家族アンケート、デスカンファレンス実施 ・研修の実施
意向に沿ったサービスの提供	アセスメントによる個別支援の充実	① 個別支援の実施 ② ニーズ聞き取り調査シートの作成と運用 ③ オンリーワン支援実施手順書の作成 ④ アセスメント能力向上のための研修参加	・個別支援実施 ・調査シートの作成と運用 ・手順書の作成 ・研修参加(2名)
接遇の向上	研修会等への参加と接遇チェックの実施	① 接遇チェックの実施と改善 ② 研修会へ参加(1回/年)	・チェック表結果の改善 ・研修会の実施

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
加算取得・維持	現加算の維持・新加算取得の為の体制・書類等の整備	① 新規加算取得検討 ② 現加算の維持と確認	・加算取得継続と新たな加算取得
有資格者の増加	たん吸引等による研修・認知症基礎研修等への参加と実務者研修助成の活用と推進	① たん吸引資格取得1名 ② 認知症基礎研修への参加(該当者)と実務者研修助成の活用と推進	・たん吸引研修1名 ・認知症基礎研修完了と介護福祉士増加

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
経費削減への意識付け	経費削減への検討、取り組み（ペーパーレス化の推進、水道光熱費の削減）	① 経費削減内容の確定 ② 毎月状況把握し伝達・使用量減	・コストについての理解が深まり、使用量等が減少
業務委託費の再検討	現契約の再検討（食事）	① 現契約の確認と他業者再調査・実施に向けての検討	・プロポーザル実施の有無等の確定

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域資源として積極的に参画し施設の役割を果たす	地域活動(福祉教育・地域行事・困りごと対応等)への参加	① 学校、地域等福祉教育・行事への参加 ② 居宅、市との連携による地域活動への参加	・地域活動への参加
関係機関との連携強化	社会福祉法人(市内特養・朝来市社協等)と連携しほっとかへんネット参画	① ほっとかへんネットへの参加・協力	・ほっとかへんネット立ち上げに参画

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 わらしべ

施設長 太田 敦子

わらしべの基本方針

1. 常にご利用者に寄り添い、心の安心を提供します。
2. 私たちは、ご利用者が安心した日常生活を送ることができるよう、支援を行います。
3. 私たちは、ご利用者に役割を持っていただき、家庭的な環境の下で生活を送っていただける様に支援を行います。
4. 私たちは、ご利用者の身体拘束及び、行動の制限に繋がる行為(言動)は行いません。
5. 私たちは、個人情報に関する守秘義務を遵守します。ご利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。

第5期中期計画のビジョン

その人らしく（自分らしく）楽しく生きる。日々の生活から看取りまで選択できる施設づくりを目指します。

2024 年度の事業計画について

わらしべは、4月1日に20年を迎えました。当初、朝来市では初めての認知症グループホームで地域に必要とされる大きな役割を担う施設として事業を開始。建設時には多額の借入をしましたが、今年3月に完納し大きな重荷を下ろすことができました。今年は報酬改定もあり、まだ経営は厳しい状況ではありますが、21年目は新たな気持ちでビジョンの実現を目指し取り組んでまいります。

支援については、昨年度から継続する業務プロセス、顧客の視点に今年度は地域公益の視点を加えた3つの視点に重点をおき取り組みます。「地域の施設、文化祭等に作品を出展し、わらしべを知ってもらう」は、昨年出店先の情報収集と選定、依頼後はご利用者と共に展示や見学に行くなど楽しみを含めたルールを引くことができました。が、地域との繋がり強化やわらしべを知っていただくまでには至っておらず継続いたします。また、わらしべを知っていただくための「お手軽パンフレット」などを制作し施設情報の提供を行い、入所申込の増加や人材確保への波及効果も期待しつつ取り組みます。顧客の視点「個々のニーズに沿った個別支援の提供」は、個別支援調査シートを活用しその人らしく楽しく生きることができるよう個別支援の提供の充実を継続いたします。地域公益の視点は「認知症理解の啓発」としました。わらしべは認知症の方々に特化したグループホームであり、その知識と技術を地域に貢献すべく朝来市との連携などにより連絡会へ参加し、意見交換や協働、サポーター養成講座への関りそして、要望に応じ法人内施設での認知症サポーター養成講座の開講などわらしべの持つ強みを生かした活動にも積極的に取り組みます。

また、施設整備に関しては、経年劣化による次なる課題も多く抱えていますが、資金計画も行き順次進めてまいります。

1. 事業概要

開設年月日：2004年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
認知症対応型老人共同生活援助事業 （第2種）	認知症対応型共同生活介護	18名	認知症要介護・要支援高齢者	2004年4月1日
老人短期入所事業 （第2種）	短期利用認知症対応型共同生活介護	空床型	認知症要介護・要支援高齢者	2012年11月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
エルダー制度の再構築	指導方法の再確認とエルダー制度の運用	① 指導方法の再確認・運用 ② エルダーの育成	エルダーの年1名育成と新人職員、エルダー職員相互の成長
内部・外部研修の情報収集と研修への参加	研修参加と伝達研修実施	① 研修参加と伝達研修実施	研修へ参加し、知識、技術の向上
求職者への情報発信	求人情報作成	① 求人情報作成	求職者へ情報発信することで求職者が増加

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
業務見直しによる利用者個別支援時間の確保	委員会の開催	① 委員会の開催（4回/年）	業務を見直し、個別支援の時間を確保
地域の施設、文化祭等に作品を出展し、わらしべを知ってもらう	情報収集と、作品出展	① 年間計画作成 ② 新規受入先の情報収集と出展及び作品の定期更新 ③ 地域文化祭へ作品出展 ④ 出展前の情報発信と出展後の Facebook 等を通じた情報発信 ⑤ お手軽パンフレット作成	季節毎に作品を出展することで、わらしべを知ってもらえる

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
個々のニーズに沿った個別支援	委員会の開催	① 委員会開催（2回/年）	利用者主体の個別支援の実施

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
の提供	ニーズを捉えた個別支援の提供	① 個別支援の提供（18 回以上/年）	個別支援が提供され満足度に繋がる
	カンファレンスの開催	① カンファレンスの開催（1 回以上/月）	情報共有と統一した支援の提供
看取り介護の充実	看取り介護に関する知識、技術の向上	① 勉強会の実施（1 回/年） ② 研修会参加（1 回/年）	内外部勉強会に参加し、知識、技術の向上
	マニュアル完成 / 更新	① マニュアルの更新	統一した支援が出来る
家族との交流会 持つ	交流会開催	① 交流会開催（1 回/年）	家族との繋がり強化

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
加算維持及び新規取得	加算の維持・新規加算取得	① 加算維持、新規加算検討	加算の維持及び新規加算取得準備が整う
収支を意識した運営	物価上昇に連動した食費、共益費の見直し	① 経費の分析 ② 食費・共益費等適正価格に修正	適正価格を算出し必要に応じた見直し
福祉機器の導入	福祉機器の選定/導入	① 福祉機器選定、予算立て	福祉機器導入の確定

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域の福祉教育に取り組む	福祉教育の受入れ及び職員派遣	① 地域活動への参加（1 名以上/年） ② 実習受入・資格者研修受講	福祉教育の受入及び職員派遣を実施し地域貢献できている
認知症理解の啓発	認知症サポーター養成講座へ職員派遣	① 認知症サポーター・キッズサポーター養成講座へ職員派遣（4 回以上/年） ② 朝来市主催の認知症キャラバンメイト連絡会に参加（随時） ③ 小学 2.3 年生対象のキッズサポータープログラム作成に参画 ④ 認知症キャラバンメイト養成研修へ職員派遣（1 名/年）	認知症理解が広がりサポーターが増加

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 さくらの苑
施設長 小山 哲也

さくらの苑の基本方針

1. 利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（生きる）施設を目指します。

第5期中期計画のビジョン

さくらの苑は地域と共に生き、つながり、誰一人取り残さない地域の窓口としての役割を果たし夢のある施設を目指します。

2024 年度の事業計画について

さくらの苑の第5期中期計画2年目は1年目に掲げた、ご利用者がさくらの苑を希望し利用していただけるように各事業のサービス充実に取り組むこと、地域の高齢者や障害をお持ちの方、児童の皆さまの悩み事や困りごとなどを地域密着型の施設であり、総合相談窓口があるさくらの苑が相談に対応し、必要なサービスにつなげ、安心・安全な地域生活が送れるようにという計画を継続し各視点での目指す成果が達成できるよう取り組んでまいります。

特に今年度は、さくらの苑で初めて外国人職員2名を特定技能1号で採用し入所ユニットでの業務を担っていただく予定です。高卒新人職員を育成するように時間をかけ業務内容を覚えていただくために計画的に育成しご利用者支援が出来るよう取り組みます。また、日本での生活や日本語の勉強などもサポートし、日本の生活に早期になれていただけるようにします。顧客の視点では、利用者個々のニーズが多様化しておりデイサービスの職員以外の居宅や事務所の職員もデイサービスや短期入所の受け入れに協力し、ご利用者とご家族のニーズに応えさくらの苑をご利用して満足いただけるよう、受け入れ体制や情報共有、業務連携を強化し受け入れを柔軟にできるよう取り組みます。

地域貢献の視点では、朝来市より依頼のある「認知症の方と家族の一体的支援プログラム事業」を今年度より年6回実施し本人と家族の両方をサポートできるよう取り組みます。

これからもご利用者とご家族への支援を継続するとともに、地域の方と職員が協力することで住み慣れた地域で自分らしい生活が送れるよう取り組んでまいります。

1. 事業概要

開設年月日：2017年5月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム（第1種）	地域密着型介護老人福祉施設	29名	要介護高齢者	2017年5月1日
老人短期入所事業（第2種）	短期入所生活介護	10名	要介護・要支援	2017年5月1日

			高齢者	
老人デイサービスセンター (第2種)	地域密着型通所介護	18名	要介護・要支援 高齢者	2017年5月1日
公益事業	居宅介護支援	—	要介護・要支援 高齢者	2017年5月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
さくらの苑独自の職員育成プログラム・指導職員の明確化	高卒、中堅職員、リーダーの育成プログラム検討・実施	①特定技能1号の研修に取り組み ②高卒育成プログラム実施	育成役割の決定、育成目的の共有
	年間研修計画作成、実施	①年間研修計画作成	年間研修計画の遂行、資格取得
職員のモチベーション向上	目的を持った研修参加と伝達研修	①役割にあった研修参加 ②伝達研修の開催	研修で学んだ内容を伝達研修で共有

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
各部署の理解を深める	職員会議のプログラムの見直し	①職員への会議参加に関する聞き取り実施	職員会議の持ち方を更新
	インカム活用(ルール作り)	①インカム活用(Wi-Fiの通信環境の整備)	インカムの活用ルールの作成
	各事業の理解を深める	①職員会議で各事業サービスの取組内容を報告し共有	多職種の業務理解のための手法の決定
広報活動の強化	SNS活用、ブランド力の強化、特化したサービス	①現在の実状に合った広報活動について話し合い方向性を確認	広報活動の目的を決定
但馬地区法人内の連携強化	介護支援専門員の連絡会を立ち上げ、平生園 わらしべ、さくらの苑の連携を図る組織を構築	①委員会開催の意義を各施設と話し合う。委員会の開催方法について話し合う	・情報交換の具体的方法の決定 ・連絡会を立ち上げ定期的に開催

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
さくらの苑各事業のサービスの見直し	さくらの苑独自サービスの検討・実施	①個別ニーズ受入れを柔軟に対応し、利用者獲得につなげる	独自サービス案の決定・目標利用率の達成
	入所利用者の 24 時間シートの活用推進・個別カンファレンスの実施	①利用者支援の充実を意図したケアカンファレンスの実施 ②24 時間シートのユニット会議での確認継続	全利用者の 24 時間シートの更新継続、個別カンファレンスで統一した支援の提供を実施

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
職員の関心を高める周知方法の検討・実施	収支理解の取り組み	①職員会議にて勉強会開催	職員全員が収入と支出についての理解
生産性向上のための取り組み	自立経営(地区に支えられる→地区を支える)	①予算達成	経常増減差額前年度比改善
	将来修繕・投資のための積立金計上	①積立金計上	修繕等に備えた積立金の計上

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域包括ケアシステムを生かした支援の検討・実施	感染症対策を行った上での出前講座の実施	①年 1 回上町ミニデイにて講座を実施 ②一体的支援プログラム事業(年 6 回)	さくらの苑の役割を上町地区に周知 一体的支援プログラム事業の周知
	ミニデイへの職員参加継続	①上町ミニデイへ参加(毎月第三火曜日)	地域の方と職員、ご利用者の繋がり継続
施設事業と地域との連携した取り組みの検討・実施	地域と合同避難訓練の実施	①運営推進委員や近隣住民、消防団と避難訓練の情報共有や連携について相談	地域の学識経験者に相談しながら素案作成
	地域ニーズ、施設の取り組みを話し合う機会として運営推進会議を活用	①運営推進会議にて施設の取り組みについて説明実施(運営推進会議 2 か月に 1 回奇数月に開催)	地域の方からの意見を聞く

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 恵生園

施設長 掃部久美代

恵生園、グループホームめぐみの基本方針

1. 私たちは ご利用者の人権を尊重し自ら選んで決めていただけるサービスを提供します。
2. 私たちは ご利用者が生き生きと喜びをもって生活できる施設を目指します。
3. 私たちは 自ら率先して話し合える職場づくりに努めます。
4. 私たちは まちの声に応え 地域に貢献できる施設を目指します。

放課後等デイサービスめぐみの基本方針

1. こども達一人ひとりの個性を大切にし、豊かな育ちを支えます。
2. こどもと保護者に寄り添い、成長を喜び合うことができる施設を目指します。
3. こども達の未来のために、地域に愛される施設を目指します。

第5期中期計画のビジョン

私たちは、多様化する利用者の障害特性に応える為の対応力を身に付け、利用者一人ひとりが生活しやすい施設作りを目指します。

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の1年目を振り返り、計画実施できていない点を含め、2年目は財務の視点、業務プロセスの視点を中心に計画していきたいと思えます。

財務の視点は、利用定員維持による安定した事業収入の確保として、自施設や近隣の相談支援事業所、行政、病院へ情報収集を行い、利用者確保に向けた営業活動を計画的に実施し、真生園と今後に向けたあり方についても連絡会を開催して検討していきます。

業務プロセスの視点では、役割を明確にした業務推進リーダー配置による職員の育成として、主任をサポートできる人材育成や現場からの意見を収集しやすい環境作り、次の主任・副主任としての期待も含めより明確な役割を与えて、人材育成を目指します。もう一つの業務プロセスの視点として、高齢化・重度化に対応した環境設備の整備は、利用者の皆さんがこれまでよりも負担が少なく、安心・安全な生活ができるよう、また、看護師、作業療法士、生活支援員と多職種で共有し、環境整備をよりよく改善していきます。そして、施設内の危険箇所を把握し、必要な対策を講じることで事故、ヒヤリハットの発生率を減らしていきたいと思えます。地域生活支援拠点を考えていく中で、相談支援事業所の役割や地域における連携体制を考えていき、また、地域移行に向けた動機付け支援として、グループホーム等の見学会や地域活動への参加を積極的に行っていきたいと思えます。

1. 事業概要

開設年月日：1976年6月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	3名	身体・知的障害者	2006年10月1日
相談支援事業（第2種）	特定相談支援	－	障害者	2013年3月1日
	障害児相談支援	－	障害児	2022年4月1日
公益事業	介護予防等拠点事業（あったかプラザ）	－	－	2003年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	共同生活援助	6名	身体・知的障害者	2021年4月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	障害児	2021年4月1日

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
新規雇用者の確保と離職予防	・あらゆる機会を活用した職員採用 ・年間を通じたフォローアップ面談の実施	①採用活動の実施 ②職員面談の実施（2回/年）	適正な職員確保と職場定着
管理職と現場職員のコミュニケーション充実	支援現場の抱える課題についてのミーティング実施	①支援ミーティングの実施（毎月） ②業務推進リーダーを中心に職制職員へ情報共有し、支援現場が抱える課題の把握と対応	何でも相談できる風通しの良い職場環境
基礎的な介護技術の習得	介護技術力向上のための研修受講と内部研修の実施	①研修の情報収集 ②施設内外の研修の受講 ③内部（伝達）研修の実施（毎月）	利用者支援・介護力の向上
接遇の向上	接遇力アップのための研修受講と内部研修の実施	①研修の情報収集 ②施設内外の研修の受講 ③内部（伝達）研修の実施（毎月）	満足度調査における接遇力の評価向上
職員レベル（経験・技術）に応じたOJTの仕組み構築	段階（経験・技術）を経たOJTの仕組みを作る	①OJTマニュアルの作成 ②職制者にてOJT職員を育成（2名）	OJTを行う職員育成

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
役割を明確にした業務推進リーダー配置による職員の育成	OJT を通じて中堅職員を育成し、主任をサポートできる人材を育成する	①業務推進リーダーの役割の明確化と明文化 ②業務推進リーダーへの OJT の実施	業務推進リーダー配置
高齢化・重度化に対応した環境設備の整備	居住環境向上のための環境設備整備実施	①必要な環境設備の検討と整備に向けての計画策定 ②必要な設備の設置、用具の購入と活用	利用者状況に応じた環境設備の整備

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
支援体制見直しによる安全最優先のサービスの提供	業務改善委員会を中心に現状の支援体制を見直す	①現状に合った支援体制へ整備 ②業務課題の見直し	安全最優先のサービス提供
業務内容見直しによる利用者個別支援時間の確保	利用者個々に応じた支援マニュアルの作成	①個別支援マニュアルの活用（情報共有）と見直し ②マニュアルに沿った個別支援の実施	利用者個別支援の充実
データ分析・検証による頻回に起こるヒヤリハット・事故の予防	ヒヤリハット・事故報告をしっかりと分析し、頻回に起こるリスクを予防する	①事故検証会議の実施（毎月） ②ヒヤリハット・事故集計結果の分析と対応策の検討と統一した支援の実施	事故・ヒヤリハット件数減（対前年比 20 件減）
満足度調査を反映したサービスの提供	満足度調査の結果を分析し、調査結果をサービス提供に繋げる	①満足度調査の実施（1 回/年） ②調査結果の分析と対応策の検討と実施	利用満足度のアップ（全項目平均利用満足度指数 70%以上）

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
利用定員維持による安定した事業収入の確保	利用定員を維持し、入所待機者を確保する	①自施設や近隣の相談支援事業所、行政への情報収集(毎月) ②短期入所利用者を積極的に受け入れ、入所待機者を確保	予算計上する事業活動収入の達成
収支を意識した啓発活動推進によるコスト削減	光熱水費のコスト削減に向けた取り組み実施	①巡回による不要な電気使用の削減 ②適正な電気機器使用の啓発	コスト削減目標値(対前年比5%減)の達成
計画的な積立金の計上	機能維持等に必要の積立金確保	①利用定員確保による収入の維持 ②光熱水費削減対策による支出の減少	積立目標額(2000万円)の達成

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域との連携強化	「あったかプラザ」や「めぐみ」での行事を企画し交流を深め、地域との連携を強化する	①「あったかプラザイベント」の実施(2回/年) ②「めぐみ」の見学会や体験会等の計画と実施	地域との積極的な交流を通じた連携強化
地域ニーズへの対応	地域の方を対象に相談会を行い、ニーズに応じた具体的なサービスにつなげる	①「あったかプラザイベント」の実施(2回/年) ②「めぐみ」の見学会や体験会等の計画と実施	地域から気軽に相談いただける関係づくり

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 真生園
施設長 大橋 幸司

真生園の基本方針

1. 安全で安心できる快適な生活の場や活動の場となる為の充実したサービスを提供します。
2. 互いに交わす挨拶に笑顔を添え、同じ目線に立ち温かいまなざしと優しさで支援します。
3. 利用者一人ひとりの個性や人権を尊重し、誠意をもって支援します。
4. 地域に愛され、地域と共に歩む施設を目指します。
5. 愛と希望に満ちた温もりのある施設づくりを目指します。

第5期中期計画のビジョン

障害福祉サービスをリードする施設として、ご利用者と地域の期待に応えていきます

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の2年目がスタートいたしました。昨年の上期に、新型コロナのクラスターにて約1か月半のゾーニング対策や、多くのご利用者・職員が感染する事案があり、感染症対策に追われた1年でした。今年度こそは、昨年度実施できなかった計画を継続しつつ、ご利用者の地域参加や外部講師・ボランティア、家族面会などの交流再開や緩和に向けて、積極的に施設として目標を定め計画を策定いたしました。

学習と成長の視点として、昨年2月に入職された外国人職員2名の方の、さらなる育成として、日本語検定N3の取得や、介護記録作成等の研修等へ参加していただき積極的に育成していきます。また、職員個々の課題を把握し、課題に即した研修参加を実施します。

業務プロセスの視点として、職員数減少により、日中・夜間の職員配置の見直しなど、ご利用者へのQOL低下にならないように、より生産性向上を目指し取り組みます。

顧客の視点として、令和6年度の障害福祉サービス等報酬改定に則り、個別支援計画書等の書式の追加・更新を実施いたします。また、利用者ニーズの高い外出支援等に取り組みます。

財務の視点として、積極的に定員の確保を目指し、今までより広範囲での利用者募集を実施します。また、法人内施設との連携を密にし、他施設からの入所希望があれば積極的に受入れます。その他に、優先順位を考慮した施設備品の購入・故障等の修繕やコストダウンを実施し、出来る限り支出を減らす取り組みを実施します。

事業概要

開設年月日：1978年5月10日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	4名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	日中一時支援	5名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	真生園診療所	—	—	1979年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
外国人支援員の育成	計画的な人材育成	①利用者ごとの特性(障害、急変時の対応)を理解 ②サブ担当制導入 ③記録・報告書作成指導 ④語学研修(オンライン) ⑤業務の振り返りシート作成	・単独夜勤を可能 ・個別支援の理解 ・各種記録作成、提出 ・コミュニケーション能力向上 ・次期受入検討と育成プログラムの作成
専門研修と内部研修(伝達研修)の実施	階層別の研修参加と伝達研修の実施 事業所見学	①外部研修参加 ②委員会計画による内部研修実施 ③職員会議・朝礼での伝達研修 ④法人 QOL 介護研修の実施	・介護技術、見識の向上 ・法定研修の実施 ・伝達力を身に付ける ・人材資源の活用
計画的な資格取得	専門資格取得者(介護福祉士、サビ管、相談支援吸引等)	①介護福祉士資格取得(1名) ②サービス管理責任者(1名)	・介護技術に基づく利用者支援 ・個別支援計画策定力を高める
キリスト教福祉を通じた人材育成	理念学習会等による接遇向上	①理念に基づいた接遇研修実施(2回) ②海外研修へ参加	・理念理解 ・接遇向上

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
支援の生産性を高めるプロジェクトチームの継続	委員会の定期開催と年間テーマに基づいた実践	①現状業務課題の抽出・改善策の実行	・業務の見直しによる支援の質を高める ・利用者が安心出来る支援の提供
各マニュアルの更新・周知方法の確立	紙面とデータ化による支援基準を明確にする	①各種マニュアル・仕様書のファイル化と更新	・統一した支援 ・支援者が必要な情報を閲覧可能
旧さくらの苑・単身寮の維持管理	既存施設を活用し、感染症・災害や職員確保に役立てる	①旧さくらの苑を、面会場所として活用 ②単身寮の清掃・老朽化箇所の修繕	・家族面会等の実施 ・新採用外国人職員の住居として活用

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
個別支援計画に基づく支援	個別支援計画の職員周知 計画書一式の見直し	①目標一覧の掲示と周知 ②個別支援計画書等の様式の見直し(生活介護利用時間等)	・目標と計画に基づく支援の達成
快適な居住環境整備	利用者ニーズに合わせた老朽化備品の更新	①環境委員会による課題抽出と対策 ②衛生的な居室整備	・整えられた住環境で利用者が生活出来る
事故発生防止委員会の強化による事故防止	委員会の定期開催と再発防止システムを構築する	①事故の対策を多方面から行う書式の変更 ②委員会での前回事故の振り返り、職員会議報告 ③リスク対策研修(2回) ④介護技術研修受講	・同類事故の再発防止 ・事故対策の強化 ・対策の振り返りと周知 ・安全な介護の提供
運営委員会・懇談会の体制整備	利用者と共に自治会組織の体制整備を行う	①運営委員会開催 ②発言し易い懇談会の形を利用者と作る ③自治会の再編を協議	・利用者参加の施設運営 ・利用者の要望を聞く機会の増加
家族との情報共有と連携	家族会・行事を通じ連携を維持する	①家族会と利用者代表との関係継続 ②施設行事を通常開催 ③利用者の日常の様子をホームページに掲載	・家族会と利用者代表との面談実施 ・施設年間行事に家族会が参加

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
利用定員確保による給付費収入の維持	関係機関・市町村へ情報提供を行い利用希望者の募集をする 身体機能低下による区分見直し	①利用者の確保(新規 6 名)と収入確保 ②区分の見直しを実施 ③施設間連絡会を開催 ④関係機関へ利用案内活動を行う	・予算通りの収入を確保する ・平均区分を上げる
施設設備の老朽化対策	老朽化設備の更新	①必要な修繕のみ実施	・修繕による支出を減らす
予算に沿った計画的な積立	確実な積立を行う	①支出の確認と経費削減に取り組む	・支出の削減と確実な積立の確保 ・水道光熱費等を毎月確認と報告、経費削減の周知

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
外部事業所と連携し利用者の短期・生活介護事業の相互利用の強化	施設案内・説明会を実施	①説明会資料の作成 ②通所事業所への渉外活動	・在宅者への情報提供 ・関係機関との連携強化 ・給付費収入の維持

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
ボランティア・社会資源の活用	外部資源(人材)を活用し利用者の活動に繋げる	①ボランティア、外部サービスを日中活動へ導入 ②オンラインを活用した外部との交流(施設間等) ③訪問事業、移動販売の拡充	・日中活動の充実 ・交流機会の提供 ・外部サービス利用
利用者の社会参加と交流	地域と定期的に交流出来る場を設定する	①作品展へ出展 ②他施設と協同し市内の作品展へ出展 ③創作活動をホームページに掲載 ④福祉体験学習に利用者と参加 ⑤他施設見学、情報収集	・地域への情報提供 ・意欲を高める創作活動の場を提供 ・社会参加の実感 ・家族が施設の様子を知る
施設独自のサービスを提供する	施設サービス・設備等の提供を行う	①在宅での入浴が困難な方のニーズを探りサービスに繋げる	・施設設備を提供する(生活介護・短期サービスの利用)
ホームページによる情報配信の強化	ホームページの更新、機関紙の発行	①ホームページの更新(2ヶ月毎) ②レイアウトを検討し機関紙を発行(2回)	・情報発信

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 和生園
施設長 松本 雄二

和生園の基本方針

1. ご利用者一人一人の可能性と無限性を求めます。
2. 個々のニーズに応えるべく高い専門性を持ったチーム支援を実施します。
3. 地域に支えられ、地域の信頼に応え地域と共に歩みます。

グループホームもみの木・かしの木の基本方針

1. ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、自立へ向けての個別支援を行います。
2. ご利用者が、安全・安心・快適な生活を送られるように支援します。
3. 地域との連携を重視し、地域に根ざしたホーム作りに努めます。

第5期中期計画のビジョン

和生園に集う一人ひとりが、仕事と生活を通してしあわせを実感でき、誰からも信頼される施設であり続けます。

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の2年目となる2024年度については、ご利用者へのサービス向上と事業所の安定的な経営に向けて、多数ある実行計画の中でも以下の3項目を重点実施事業として強力に推し進めます。

① 業務効率化の推進と振り返りの実施（業務プロセスの視点）

昨年度に引き続き、今年度も重点実施事業といたしました。管理職からのトップダウン型ではなく、事務を含めた現場での業務を常とする職員が中心となって、自らの仕事の進め方を見つめなおすことで、その中に潜む非効率な業務を洗い出し、PDCAサイクルを活用し継続的な業務改善を行っていきます。また、この取り組みは次世代の職員を育成するための、大切なツールになると考えます。

② 高工賃を目的とした作業確保に取り組む（顧客の視点）

和生園に通所されるご利用者の主要な目的のひとつは、高工賃にあると考えています。現状を当然とせず、少しでも多くの工賃をお支払いするためには、支援する職員のスキルアップが不可欠であることから、就労関係の各種研修会に職員を派遣し知識の習得に努めます。また、定期的な会議（企業開拓作戦会議）を開催して、作業開拓に係る情報の収集と共有、複眼による作業の効率性や課題の抽出と改善策の立案等を行いながら、ご利用者に満足いただけるよう高工賃化に取り組みます。

③ 利用ニーズと主従施設と定員に応じた契約者の確保（財務の視点）

ご利用者のニーズに応じた質の良いサービスを提供するためには、そのサービスを提供する職員に高い知識と意識が求められ、それを充足させるためには安定した経済的基盤も重要な要因となります。具体的には就労継続支援B型利用者の純増2名以上を計画とし、朝来市内の相談支援事業所や朝来市社会福祉課へ新規利用者の紹介依頼、及びあらゆる可能性を考えて、障害者等を支援する民間団体や事業所との交流も継続していきます。

1. 事業概要

開設年月日：1982年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	40名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援	－	身体・知的障害者	2018年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	共同生活援助	17名	身体・知的障害者	2012年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
就労支援力の向上	就労支援研修の参加と共有による支援力の向上	①就労支援研修へ参加した職員による伝達研修の実施 (2回/年)	各職員の伝達力と専門知識の向上
利用者完結型の作業に向けた作業支援の工夫	利用者個別の支援マニュアルの整備とチームアプローチの実践	①利用者個々の障害特性を反映した支援マニュアルの効果的な活用と定期的見直し	利用者個々の支援マニュアルに基づく統一した支援の提供
PDCAサイクルを意識した業務遂行	業務遂行向上会議の開催による振返りの習慣化	①業務遂行向上委員会による非効率業務改善の実践 (3回/年)	組織によるPDCAサイクルの実践
研修参加への積極的な投資	Web研修の積極的な活用	①事業所内で共有可能なWeb研修の定期的な受講 (3回/年)	Web研修の活用による効果的な知識習得

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
広報誌の効果的な発行と活用	広報誌の内容と配布先の見直し	①事業所利用に繋がる、読者目線での広報誌の発行 (2回/年)	読者の目線に合わせた広報誌の発行
持続可能な農福連携事業の構築	年間を通じた農業生産者との協働と生花栽培の取組みによる生産性の向上	①農福連携作業売上/785,000円以上に繋がる取組み実施	農家協力型 235,000円/年 自主生産 550,000円/年
業務の棚卸しによる無理・無駄・ムラの見直し	Web環境の有効活用と工夫	①Web会議の継続による業務パフォーマンスの向上	職員個々のタイムマネジメントによる計画的業務遂行
	業務効率化の推進と振返りの実施	①非効率業務の改善の継続 ②業務の棚卸しによる非効率業務の改善提案(3回/年)	非効率業務に気づき、ボトムアップで改善を提案できる組織(人)体制づくり

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
途切れのない福祉サービス提供のための多職種連携	家族・本人のニーズをもとに就労支援を多職種連携で行う	①把握した家族・本人ニーズの分析実施 ②通所利用を継続して行くための関係機関と連携した支援の提供 (1人1回/年以上)	関係機関との連携体制の強化

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
利用者満足度の向上	利用者個々の状況に合わせた柔軟なサービスの提案	①利用満足度調査の実施 ②利用満足度調査結果を反映した個別支援の工夫	利用満足度指数/70%以上を維持
家族への応援体制を強化	施設見学会や家族懇談を実施	①家族の安心に繋がるサービス提供	家族と連携した利用者支援の提供
月額工賃配分額の増	高工賃を目的とした作業確保に取り組む	①月額平均工賃 (17,000 円以上) の達成	各作業担当職員の責任に基づく業務遂行
社会参加の機会提供	生活に役立つ情報提供の工夫と実施	①生活情報に関する利用者との情報交換会の定期開催 (3回/年)	利用者の生活時間の充実

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
事業所全体での事業収入の確保 (利用者確保)	利用ニーズと主従施設と定員に応じた契約者の確保	①新規利用契約者 2 名の確保 (年間)	年度の計画契約者数の確保
	利用者個々の平均利用率の向上に取り組む	①利用者個々の個別利用率の月次確認に基づく欠席対策の工夫	利用者毎の欠席理由の把握と対応
	加算請求要件の正しい理解	①加算要件の正しい共通理解による給付費請求の実施	給付費請求に関する知識共有
利用者の障害の高進と高齢化への対策強化	個人の都合に合わせた施設利用の推進	①施設利用増に繋がる土曜日の開所日数増の定着 (3~4日/月)	個別利用率の向上
情報収集力の強化	神戸地区就労支援事業所との連携強化に取り組む	①神戸地区就労支援事業所と連携した事業推進に係る連絡会の実施 (2回/年)	神戸地区就労支援事業所との定期的な連絡体制の構築

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
情報収集力の強化	行政からの情報収集を強化	①第 7 期朝来市障害福祉計画に基づく現状把握と課題確認	第 7 期朝来市障害福祉計画を反映した事業立案
	在宅障害者に係る情報収集を実施	①朝来市自立支援協議会等の官民連携会議への参加 (1 回/3 か月)	新規契約者確保に向けた情報収集
工賃向上計画に沿った取組みの強化	作業毎の課題共有と対策に基づく作業提供	①年間工賃配分金額 (7,344 千円以上) の達成	給付費ランクの維持と目標工賃額の達成

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
積極的に地域と繋がる関係づくり	地域の清掃活動に継続的に取り組む	①地域目線に立った清掃活動の継続 (月 2 回)	地域の方に本当に喜んでいただける清掃活動
施設の見える化の推進	生産品の事業所内窓口販売の推進	①外部者へ事業所内窓口販売の案内 (30 回/年)	外部者の来所による事業所チェック

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 北但広域療育センター
施設長 稲津 慎也

北但広域療育センターの基本方針

1. 利用者の人権を尊重して、利用者が全人的に生かされることを目指して支援します。
2. ICF の障害観点に立って、生活、環境をも考慮した質の高いサービスの提供を目指します。
3. 北但馬の療育の中核として、職員の専門性の向上を図り、地域（教育、医療、福祉、家庭）との連携体制の構築を図ります。
4. キリスト教精神を持って、日々、利用者と接します。

第5期中期計画のビジョン

地域の療育の中核を担います。

2024 年度の事業計画について

法人第5期中期計画2年目となる今年度は、児童福祉法の改正に伴い、報酬改定が実施され、児童発達支援センターの役割がより具体化されました。市内では新たな児童発達支援事業所や放課後等デイサービスが事業を開始し、センターを取り巻く環境も急速に変化しています。療育センターは、これまで培ってきた経験を大切にしつつ、児童発達支援センターを中心に「地域の療育の中核を担う」役割を果たすべく、職員一同、熱意を持って取り組んでまいります。

児童発達支援センター「すまいる」では、制度改正や報酬改定にスムーズに対応できるよう、こまめに情報収集を行うとともに、職員間で共有し、適切なサービス提供に努めます。また、児童発達支援センターとしての具体的な取り組みについて部会議等で検討を進めます。

放課後等デイサービス「らみい」では、内部研修や外部研修の機会を積極的に設け、より良い療育支援を提供できるよう努めます。また、「らみい」での療育のみならず、保育所等訪問支援とも積極的に連携しながら、より個別のニーズに沿った支援を提供します。

障害児者通所支援事業「トゥモロー」では、看護師2名体制で医療的ケアを必要とするご利用者に安心して過ごしていただける体制を継続しつつ、生活介護、放課後等デイサービスとも、お一人お一人にあった日中活動の充実に努めます。

相談支援事業「びあほくたん」では、専門員2名相談員2名の体制のもと、セルフプラン利用者への情報提供及びサポートを行うとともに、地域の発達支援の入り口としての役割を担うことができるよう、行政・関係機関等と協議を継続します。

ひょうご発達障害者支援センタークローバー豊岡ブランチでは、児童福祉法等の一部が改正され、障害児支援の中核的役割を担うことが明確化される中、改めて児童発達支援センターと豊岡ブランチそれぞれの強みや役割を共有していけるよう、連携・支援を行います。また、兵庫県強度行動障害スーパーバイザー養成事業実施法人等と連携し、圏域内の支援を考えるとともに、広域的支援人材（仮称）の役割も想定した機関コンサルテーションを進めます。

風発達クリニックでは、引き続き厳しい経営状況にありますが、地域における貴重な発達専門の診療所として極めて重要な役割を担っています。今後も経営改善に努めながら維持していきます。

1. 事業概要

開設年月日：2008年10月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業（第2種）	児童発達支援	20名	障害児	2018年4月1日
	保育所等訪問支援	—		
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	8名	重症心身障害者	2008年10月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス		重症心身障害児	
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	障害児	2018年4月1日
相談支援事業（第2種）	一般相談支援	—	身体障害児者	2008年10月1日
	特定相談支援	—	知的障害児者	
	障害児相談支援	—	発達障害児者	
公益事業	ひょうご発達障害者支援センターコーパー豊岡プラザ	—	発達障害者	2009年4月1日
公益事業	風（ふう）発達クリニック	—	小児科・精神科 神経内科	2009年5月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
他機関と連携した専門職育成	他機関との連携による専門職のスキルアップ	①他施設の見学・研修 ②内部、外部研修の実施 ③他機関との連携	・より専門的な支援の提供
保育所等訪問支援事業の継続実施	保育所等訪問支援事業の支援者を育成	①事業継続に向けて体制の検討	・保育所等訪問支援事業の継続

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
業務の効率化による働きやすい環境づくり	ICTの活用による業務の効率化	①記録・個別支援計画のICT化準備	・実施方法（導入ソフト）の決定
ご利用者の利便性、安全性の向上	駐車スペース、療育スペースの確保	①前年度白線引き直し完了 ②落雪防止の検討 ③療育スペースの工夫	・安全性の向上 ・事故防止

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
家族支援の充実	家族の支援力向上と保護者間の交流支援	①家庭療育支援講座の導入を検討	・家庭療育支援講座実施体制構築
療育の入り口部分での相談支援	障害児相談への特化(セルフプランの解消)	①成人の受け皿について市と協議	・児童成人のバランスを改善し児童へ特化

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
安定した給付費収入の確保	児童指導員等加配加算、専門的支援体制加算の継続取得	①ニーズ、加算要件に応じた適正配置を検討し、配置	・両加算の取得による目標収入の達成
	専門的支援実施加算の取得	①療法士個別による専門的支援実施加算の取得開始検討	・専門的支援実施加算の取得
安定した利用率の確保	事業ごとの月次目標対利用率の視覚化	①年度登録数に応じた目標値の設定と達成状況把握による進捗管理	・目標利用率の達成

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
地域の障害理解と人材育成	地域に向けた啓発活動や研修会の実施	①地域に向けた研修会を開催	・啓発活動・研修会の開催
児童発達支援センターに求められる役割を担う	報酬改定に対応した体制の検討・実施	①制度改正の情報収集と体制構築の検討 ②定期的な行政との協議	・制度改正後の方針を明確化

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 エスポワールこじか

施設長 種谷啓太

エスポワールこじか基本方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、専門性を生かした支援を目指します。
2. 利用者の個性及び人権を尊重し、健やかな成長に向けて総合的に支援を行います。
3. 地域の保健・医療・福祉等との綿密な連携を図り、地域と共に歩む施設を目指します。

第5期中期計画のビジョン

地域に必要とされる資源に（物も人も）なるよう自立を目指す

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の2年目の取り組みは、進捗が見られなかった計画に対する評価と再チャレンジをおこないます。ビジョンでは地域の療育分野での社会資源として、かつ経営、運営面での自活を目指し、取り組んでいきます。重点とする3事業は、会議・委員会の活性化、リーダー育成、IT利用での療育をおこないます。

会議・委員会活性化の取り組みは、相談事業から、療育場面への流れの中でスタッフが対象幼児・児童への取り組み検討を活発におこなえるように、児童発達管理責任者を中心にスタッフの意識向上をおこないます。

リーダー育成は、保育士7名中6名が契約スタッフではありますが、それぞれが7つの委員会で業務内容の確立と、セルフチェックできる手順書の作成をおこないます。

IT化については、スタッフが知識と経験を持っていませんが、良い助言者探し、学習を重ねて、療育にIT機器を活用したコミュニケーション支援、意思伝達方法（トーキングエイド、V O C A、スマホアプリ）など、生活の質向上に生かせる利用方法を探ります。

2024年度から5年間の指定管理指定を受けました。5年のスパンで幼児・児童を囲む環境は変化すると思います。新たなチャレンジングな集団を目指し、地域での療育という社会資源の在り方をより具体的に表していきます。

1. 事業概要

開設年月日：2011年4月1日（委託開始）

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業（第2種）	児童発達支援	10名	身体・知的障害児童	2013年4月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	身体・知的障害児童	2013年4月1日
相談支援事業（第2種）	特定相談支援	—	障害児	2014年10月1日
	障害児相談支援	—	障害児	

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
理念を学ぶ機会の継続	①日々を生きる力朗読 ②理念研修	①朝礼にて朗読とコメント ②理念学習会実施	理念に基づいた療育の在り方を知る
多様な専門研修の継続	①ビデオ研修の継続 ②スーパーバイズ研修 ③専門研修の受講(障害児支援や資格取得など) ④その他(虐待防止、身体拘束、感染症予防など) ⑤伝達研修	①各担当年2回 ②心理士による研修 ③発達障害実務者養成研修 強度行動障害支援者養成研修など ④各委員会担当による企画と実施 ⑤伝達研修の計画実施	各研修後に意識の向上、行動の変化
会議等の質を高める	会議等を活性化 する (積極的発言・進行や参加意識の向上)	正規職員のファシリテーター力向上 報告・発表の実践	スムーズな進行、発言のしやすさ、記録の見やすさを目指す
スタッフの人事考課を継続	こじか用の人事評価表を活用して実施する	児発菅によるフィードバック面接実施	自身の強み弱みに気付ける
計画的なOJTを継続する	①施設見学案内のOJTを継続する ②園訪問のOJTを継続する	①ロールプレイを交えた実践 ②実践と報告会の実施	園訪問、見学案内が単独で出来るようになる

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
業務等の役割分担によるリーダー育成し委員会を強化する	リーダーによる手順書の作成 リーダー育成	各担当業務の習得 委員会の目的、内容の理解と手順書作成	請求や担当事業計画の業務内容を理解

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
オープン療育を継続する	オープン療育の実施	オープン療育の計画と実施	2市1町からの家族参加と契約
ホームページを魅力あるものにする	ホームページの見直し	内容検討会議 イメージ図作成	見てみたいホームページになる

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
学習会の継続実施	①保護者学習会の実施 ②グループ学習会の実施	①年6回以上 ②2グループ以上に実施	①年6回以上 ②2グループ以上に実施
保護者同伴の療育を活かして相談に対応する	①グループ毎の相談日を設ける ②Dr 療育相談の提供	①グループ相談の計画と実施 ②大森 Dr 相談実施	①保護者同士で相談ができる環境を作る ②毎月実施
IT を利用した療育の実施	①療育に zoom を活用した活動を入れる ②IT を利用した療育について情報収集する	①zoom の療育現場での活用 ②IT 利用につき意思伝達ソフトを積極的に使用する	①zoom 使用に慣れて使用を一般化する ②対象幼児、児童の生活の質の向上を図る
保護者満足度調査の継続	保護者満足度調査の実施	保護者満足度調査の実施と公表	調査の9月実施と12月公表
確実な連絡方法を確立する	情報収集と実施	LINE の無料アプリ使用継続	スムーズで確実な連絡網確率

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
目標利用数の達成	目標利用人数対比を意識する	毎月の実績報告にて意識する 営業日数 239 日、利用率 83% 相談事業 目標件数 254 件	年間目標利用数 2,000 人の達成
保護者の要望に沿った振替時間の設定	月 30%の振替	個別の設定と担当スタッフ間での申し送り強化	利用しやすい振替の実施

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
関係機関との連携を強化する	①児童施設等との年1回の連絡会や引継ぎの実施	①就学児への放デイ説明会や引継ぎを実施	①放デイの説明会での就学児、家族の安心
地域の会議等への協力を継続	2市1町の会議等へ参加	各市町自立支援協議会等への参画	養父市、朝来市、香美町の自立支援協議会に参加
育児相談を実施する	育児相談受入れの体制作りと周知	体制作りと周知の実施	地域の育児相談を受けける体制の構築と周知の方法の確認
地域に協力できることをする	出来る事の実践（講師依頼受付、災害時の協力など）	自立支援協議会、ほっとかへんネットでの情報などからの協力内容を実施	こじかを知ってもらい、療育の必要性などの周知

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖生園
施設長 加藤 成久

神戸聖生園の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 本人、家族の思い、また将来の夢や希望の実現に向けたサービスを実施します。
3. 全スタッフが力を集結し、総合力を持ってチームとして支援を実施します。
4. 「利用者主体」を支援のキーワードに、利用者参画が見える支援を実施します。
5. 地域行事・活動へ計画的に参加し、利用者が地域の役割を果たす支援を実施します。
6. 利用者の安心・安全を守るため、建物・設備の改修を計画・実施します。

第5期中期計画のビジョン

- ・すべての利用者・職員にとって魅力ある生き生きとした施設にする。

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の2年目、当事業所が「生活介護」の単機能となって4年目となります。コロナ禍後の活動再開に合わせて、利用者の皆さんから生活介護支援について、個別のご希望に応える支援提供ができてきているかの評価をいただくときであるとの認識を持って取り組みます。具体的な取組みをすすめるにあたっては次の4つの柱を基本とします。

- ① 「延べ利用者数の増加」については、多様なご希望に応えるために並行利用や転施設も含めた支援を継続して取り組みます。必要職員数に応じて求人活動を継続し支援を支える職員を確保します。また、手漉き紙プロジェクトをすすめて、個別支援「マイプログラム」の更新、充実を図ります。
- ② 「感染症予防に関する対策と利用者の健康維持管理」については基本的な感染予防対策を継続し、感染症に対する強い不安感を押さえて安心感をご提供できるようにします。さらに既存の昼食提供システムを使って、食事提供の切り口から利用者の健康維持管理の取組み準備をすすめます。
- ③ 「利用者の居場所作り」の取組みを継続実施し、合わせて「視覚支援」の提供を深めて支援の質の向上を目指します。そして重度者支援研修等の学びを共有し、より高いレベルの支援が提供できるようにします。
- ④ 「2024 報酬改定に係る新ルール」への対応については、本人希望に基づくサービス提供時間管理を徹底し、また、重度者支援に関する資格保有者確保や支援計画策定等をすすめて深めるとともに財務の安定を図ります。

これらを進めるにあたっては地域交流活動を継続し、地域貢献の方針を緩めることなく、そこにBCPの更新、充実を取り入れながら進めてまいります。

事業概要

開設年月日：1982年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(2種)	生活介護	60名	知的障害者	2008年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
組織力の向上	神戸聖生園の組織の安定	ビジョンの共有	職員育成の構築
やりがいの創出	研修の実施と役割の明確化	職員との面談の実施	職員のやりがい創出
ワークライフバランス	職員のメンタル面への配慮	職員の独立した休憩場確保	働きやすい環境

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
マニュアルの策定	カテゴリごとのマニュアルの策定・改訂	マニュアル項目を絞った策定・改訂	マニュアルの整理と支援内容の標準化
紙漉き活動のプロジェクト化	紙漉き活動の継続	紙漉き活動の継続と新製品（作品）の開拓創出	紙漉き作品販売による認知拡大

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
専門性の向上	自閉症、重度化支援に関する専門性の向上	研修の実施と実践	利用者の安心、安全な生活
活動の充実と活動場の工夫	ソフト面での活動に関する立案	現在の活動にとらわれない活動の立案と実施	神戸聖生園の充実した活動
自前給食の提供	自前給食の実施	利用者のニーズ調査と健康維持支援の実践	満足感ある食事提供と健康維持

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
収支をえるための情報収集	加算の取りこぼしゼロ(加算制度の学び)	新報酬体系の理解と取りこぼしがないかの確認 加算獲得への準備実施	収支の安定と増収

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
新たな活動の立案と利用者の安心と生き甲斐活動の充実	ハード面での活動に関する立案	利用者の特性に応じた活動場の提供	積み立ての実践により環境整備に充てる

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
ボランティアの受入再開	地域の活動への参	ボランティアの受入れ	施設のオープン化
地域清掃の定着と継続	地域清掃の再検討と実施	友が丘地区清掃と竜が台地区清掃継続	地域貢献

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームせいれいやまて
施設長 加藤 成久

グループホームせいれいやまての基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供するために環境整備を実施します。
3. 利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
4. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
5. 世話人・支援職員らが協力して支援内容を工夫し、温もりのある事業所を目指します。

第5期中期計画のビジョン

- ・すべての利用者・職員にとって魅力ある生き生きとした施設にする。

2024 年度の事業計画について

本年度は、以下の3点を計画の柱として捉えて、そこに係る各項目について取り組みを進めてまいります。

- ① 「組織力の向上」では、様々なチャンネルを使って職員求人を継続、就業時の職員研修の機会をしっかりと作って職員を育成し「支援の標準化」を目指します。また感染症予防対策の継続と合わせて組織力を向上させ、利用者の安心・安全な生活をお支えます。
- ② 「職員組織の専門性の向上」について内・外部研修参加や資格取得者の配置を目指して2024年度の報酬改定・ルール改正に合わせて取り組み、将来を見据えた課題に取り組むとともに財務の安定を図ります。
- ③ 「地域貢献」活動として、地域住民のひとりとして地域交流の機会を増やし、自治会活動への参加、協力を進めます。また、当事業所に係るBCP(事業継続計画)の更新、充実を図ります。

これらの計画をバックアップ施設である神戸聖生園との連絡を密にして実施します。特に本年度は引継ぎ時のポイントには直接に職制者が関わることで組織力を強めてまいります。

事業概要

開設年月日：2005年8月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2006年10月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
組織力の向上	組織の安定	①ビジョンの共有 ②安定した職員配置 ③バックアップ職員と情報共有継続	①職員育成（支援の標準化） ②適正な職員配置 ③情報の共有化
やりがいの創出	研修の実施と役割の明確化	④職員との面談実施	①職員の遣り甲斐創出

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
マニュアルの策定	カテゴリごとのマニュアルの策定・改訂	マニュアル項目を絞った策定・改訂	・支援に直結するマニュアルの作成 ・支援の標準化

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
専門性の向上	自閉症、重度化に対する専門性の向上	研修の実施と実践	利用者の安心、安全な生活
情報共有	情報の共有化	サビ管を中心とした情報の共有	ホームに合った情報共有システム構築

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
収益を得るための情報収集	加算の取りこぼしゼロ(加算制度の学び)	新報酬体系の理解と取りこぼしがないかの確認継続 新たな加算獲得の取組み継続	収支の安定と増収入

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
地域の行事の参加	地域の行事・活動の参加	近隣の小学校の開放行事に参加	地域との交流

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームたいのはた東
施設長 加藤 成久

グループホームたいのはた東の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を準備し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します。

第5期中期計画のビジョン

- ・すべての利用者・職員にとって魅力ある生き生きとした施設にする。

2024 年度の事業計画について

本年度は、以下の3点を主な課題と捉えて事業展開をすすめてまいります。

- ① 「利用者の安心、安全と安定したご利用の継続」については、感染症予防対策を無理なく継続し、利用者の健康をお支えします。
- ② 「職員体制の安定化」については、将来を見据えた組織づくりを推し進める年として、次世代への引継ぎを意識した取り組みをすすめます。また、「2024年度報酬改定」に伴うルール変更に合わせて福祉専門職員やベテラン職員の配置を適切に行ってホームでの支援の質を向上し、財務の安定を図ります。
- ③ 「地域交流の仕組みづくり」では、地域の清掃活動や自治会活動への参加機会を増やし、地域貢献をより具体化していきます。また当事業所に係る BCP（事業継続計画）の更新、充実を通して地域とのつながりをより深めます。

これらの計画をバックアップ施設である神戸聖生園との連絡を密にして実施します。本年度も職員ミーティングや会議に職制者が関わることを継続して組織力を強めてまいります。

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
組織力の向上	組織の安定	①ビジョンの共有 ②安定した職員配置 ③バックアップ職員と情報共有継続	①職員育成-支援の標準化 ②適正な職員配置 ③情報の共有化
やりがいの創出	研修の実施と役割の明確化	①職員との面談実施	①職員のやりがい創出

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
マニュアルの策定	カテゴリごとのマニュアルの策定・改訂	マニュアル項目を絞った策定・改訂	支援に直結するマニュアルの作成・支援の標準化

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
専門性の向上	自閉症、重度化に対する専門性の向上	研修の実施と実践	利用者の安心、安全な支援と生活
情報共有	情報の共有化	サビ管を中心とした情報の共有	ホームに合った情報共有システム構築

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
収益を得るための情報収集 収入増の情報収集	加算の取りこぼしゼロ(加算制度の学び)	新報酬体系の理解と取りこぼしがないかの確認継続 新たな加算獲得の取組み継続	収支の安定と増収入

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
地域清掃の定着と継続	地域の活動への参加	清掃を通して地域貢献	地域清掃に参加多井畑東町地区
地域清掃の定着と継続	地域清掃の再検討と実施	地区清掃の継続(バス停・ごみ収集スペース)	地域貢献

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸愛生園
施設長 加藤 航

神戸愛生園の基本方針

1. 唯一無二の存在である利用者の命を守り、その人らしい生活を送ることができるように支援します。
2. 態度、言動がどのような影響を与えるかよく考え、人権に配慮したケアに努めます。
3. 利用者のニーズに基づき、従来からのサービスに固執せず、神戸愛生園の総合力を持って柔軟にサービスを提供します。
4. 施設機能の情報提供、相談を積極的に行い地域に必要とされるよう努力します。

第5期中期計画のビジョン

40年を迎え、築いてきた歴史を再認識、時代の変化に合わせて守るもの、変えるものの選択。
暖かな空気感、人間味、家族観の継承。

2024年度の事業計画について

昨年度より、老朽化した施設の建替え・リノベーションについて、法人協働の元、急遽プロジェクトが始まりました。乗り越えるべきハードルはたくさんあり、どれも決して低くありませんが、今年度はご利用者・職員の意見も交えつつ、共に神戸愛生園の念願成就を目指して進めて参ります。

従来の方の身体障害の方の入所が減少傾向にある中、他の障害が主である方々の受け入れが進んでいます。将来の経営の安定化やニーズへの対応へとつなげていきます。

ご利用者の重度・高齢化が進む中、今年度は入浴支援の改良を行う予定としております。ご利用者のQOLの向上と職員の負担軽減の実現を目指します。

EPAは昨年度マッチング成功したインドネシア人女性が12月に着任します。今回は初めてのムスリム（イスラム教信者）の方をお受けします。新たな刺激を受けつつ、丁寧にサポートしていきます。

高齢のご利用者が増え、重度化や退所は今後も進みます。現状に即した支援体制の再構築を模索しつつ、ご利用者主体で施設の暖かい雰囲気をなくさないように努めてまいります。

1. 事業概要

開設年月日：1982年5月10日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	50名	身体障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	5名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	神戸愛生園診療所	—	—	1984年4月10日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
人材定着と中堅職員の底上げ	基本的な介護・支援技術の定着	利用者に安心してもらえる介護技術の提供	介護力、支援力の向上
	共に笑顔になる体験	共に笑顔になれるイベントの企画、実践。	職員のモチベーションアップ
理念の浸透	理念に対する各自の行動目標の明示（通称：理念の樹）	行動目標の振り返りの共有と、自己アピールボードのリニューアル	職員のモチベーションアップ

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
業務内容の見直し	働きやすい勤務体制への見直し	①入所主任のWLB改善に向けた、業務の棚卸、整理	現状に即した勤務体制の確立
	マニュアルの再整備	勤務体制の見直しに伴うマニュアルの整理	新しいマニュアルの完成

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
利用者主体の支援の実現	意思決定支援に基づく実践	意思決定支援に関する勉強会の実施。	利用者支援の質の向上
施設老朽化への対応	神戸愛生園の建て替え	①事業内容の決定	利用者の安心、期待に繋がる

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
支出の見直し	時間外勤務削減への取り組み	対象職員の超過勤務の削減	時間外勤務手当額減少とWLB
収入の安定	定員の充足と空床期間の短縮	定員の充足とロングSSの確保	当初予算の達成
	SS利用率の向上	①受け入れ条件の緩和 ②新規利用者または利用再開の方受け入れ月1名以上	目標利用率の達成

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域とのつながりを取り戻す	ボランティア受け入れの再開	①登録ボランティアへの働きかけ・受入体制の再構築	地域活性化、利用者のQOL向上、職員の資質向上
	地域行事への参加	地域行事参加・交流	地域の一員として認知度向上

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 きたすま障害者相談支援センター
施設長 三木 卓也

きたすま障害者相談支援センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者（児）とその家族等からの相談に対し、必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係諸機関との連携を図り、障害福祉サービスの利用援助（サービス等利用計画の作成を含む）等適切な支援を行います。
2. 相談者の意思及び人権を尊重して障害特性や本人・家族のニーズ等を的確に把握し、公正・中立性を保ちつつ常に相談者の立場に立った地域生活支援の提供に努めます。
3. 相談者やその家族等のニーズ、想いを受け止め、適切な助言や情報提供等の支援ができるよう、職員の専門性の向上に努めます。
4. 障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域を目指し、須磨区自立支援協議会の事務局として活発な運営を専門性とチームワークで行います。

第5期中期計画のビジョン

障害のあるなしに関わらず誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことができるよう、望みごとや困りごとが気軽に相談できる身近なセンターを目指します。

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画（2023年～2025年）の2年目は、神戸市からの委託契約（2021年～2025年）の4年目となります。次期（2026年～）委託更新の具体的な動向を注視しつつ、センター事業に与えられた役割に真摯に向き合い、第5期中期計画に掲げるビジョンの実現を目指していきます。

新たな局面を迎えたコロナ渦の中、孤立、貧困、格差、引きこもり、ヤングケアラーなど社会的な問題がクローズアップされ、障害のある方やご家族からのご相談も既存の制度やサービスだけでは対応が難しくなっています。障害のある方やご家族の多くが直面されている将来への不安、特に、親なき後の8050問題、また神戸市全体の課題でもある計画相談支援サービス、障害児相談支援サービスの不足問題は続いており、不安や不足解消に向けた相談支援を展開していきます。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の権利を擁護する専門職としての自覚と責任感を持ち、OJTによる相談員自身の自己覚知、センター全体の相談支援力の向上に向け、内部研修の定期的かつ継続的な実施、外部研修への積極的参加、定期ヒアリングやスーパービジョン（個別・グループ）によるサポート、ワークライフバランスの推進など、職員が安心して生き活きと働くことができる風通しの良い職場環境づくりに努めます。

ビジョンに掲げる、障害のある方やそのご家族が住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことができるよう、人と人との“つながり”を大切にして、須磨区自立支援協議会の事務局運営を通じて培った地域の関係機関とのネットワークの強みを活かし、気軽にご相談できる身近なセンターを目指します。

1. 事業概要

開設年月日：2014年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	一般相談支援	－	身体障害者	2014年4月1日
	特定相談支援	－	知的障害者	
	障害児相談支援	－	精神障害者	
公益事業	相談支援事業	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2014年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
相談支援力の向上	定期ヒアリング、スーパービジョンの実施	①教育、管理、支持的関わりによる実施	相談支援力の向上
専門知識、面接スキルの取得	外部研修への参加、内部研修の実施、チームアプローチの実践	①外部研修参加、実践に即した内部研修の実施	総合的な相談支援を担う人材の育成

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
チーム支援体制の構築	所内会議、ケース会議の活性化	①情報共有と支援力向上	チーム支援をサポートする体制の充実
組織内の業務分担を平準化する	役割分担表の作成と見直し	①業務の平準化と優先順位付け	WLBの推進とコスト削減効果
風通しの良い職場環境づくり	超過勤務削減、有給休暇取得、業務改善を推進	①業務の洗い出しと優先順位付け	職員が安定して生き生きと働くことのできる魅力ある職場
地域への積極的な情報発信	SNS（Facebook）の活用	①Facebookへ投稿	気軽に相談できるセンターとしての認知度アップ

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
権利擁護の推進	虐待防止チェックリスト、CS調査を実施	①年2回実施	相談者の尊厳と意思を尊重した相談支援の提供
障害児相談支援の実施	障害児相談支援を拡充	①5件/70件	適切な療育支援とライフステージに応じたサービスの調整
計画相談支援・障害児相談支援を拡充する	計画相談支援と障害児相談支援の受任件数増	①75件/契約件数	健全な収支バランスを目指し状況を改善
災害等、非常時の備えと対応	災害時要援護者リストの作成と備蓄品整備	①備蓄品整備とリスト更新	災害等発生時に要援護者の支援に素早く対応

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
事業を継続して受託する	2026(令和8)年度への委託更新に向け、行政との連携、情報収集	①神戸市と協議	神戸市計画に沿った事業運営と受託継続
委託業務を適正に実施する	各種調査業務(区分、勘案、移動支援、訪問入浴、同行援護)の確実な実施	①400件/年	公正かつ客観的な調査の実施
持続可能な事業運営	BCP計画の策定と更新	①計画作成と更新	災害等非常時における効率的な事業継続運営
体制加算の維持、個別加算の取得	所定研修の受講と個別加算の取得要件の正しい理解	①12件/年	各種加算の確実な請求

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
地域の身近な相談窓口としての役割を果たす	地域の関係機関との連携支援によるアウトリーチ強化	①基本相談の丁寧な対応	制度の狭間にある福祉ニーズへのきめ細やかな対応
地域とのネットワーク作りを図る	就労支援機関のネットワーク作りと就労ニーズに対応	①勉強会、交流会の実施	就労支援技術や制度の共有による就労支援の実践
	障害福祉サービス事業所自主製品の啓発と販路拡大	①区役所、コープ等での販売	製品の質の向上と販路拡大、地域とのつながりを深化
	障害のある方「権利擁護」「災害時要援護者支援」の実践	①研修会の開催、サポートカードの普及・啓発	共に生きる誰もが暮らしやすい共生社会づくり
	障害のある方「地域移行支援」の啓発、支援者の資質向上	①研修会の実施	障害のある方の地域生活を支える支援者の資質向上
	障害児支援に関わる機関の関係づくりと支援力の向上	①説明会、交流会の実施	障害児の保護者支援と関係機関の支援力向上
	相談支援事業所間の連携強化と地域課題へのアプローチ	①学習会の実施	他職種連携の推進と相談支援スキルの向上
	発達の気になる子どもを持つ保護者への支援	①ピアカウンセリングの実施	保護者同士の交流機会の確保と孤立化予防
地域福祉ニーズに向き合い対応する	コア実務者会・実務者会への積極的な参画	①コア実務者会・実務者会への積極的な参画	分野を超えた法人間の連携による地域福祉ニーズへの対応

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖隷総合相談センター
施設長 三木 卓也

神戸聖隷総合相談センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援サービス(サービス等利用計画の作成)の提供等、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう相談支援を行います。
2. 必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えます。
3. 地域が抱える課題のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢に関係なく生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談の対応、ニーズの把握に努め新たなサービスを創造します。

第5期中期計画のビジョン

障害のあるなしに関わらず誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすために、気軽に相談が出来て、憩いの汀となるよう地域と共に歩みます。

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画(2023年～2025年)の2年目は、事業開始9年目を迎えます。地域共生社会の実現に向け地域交流を目的とした「Tunagari～あつまり処～」の運営を通して、更なる地域の福祉ニーズに対応した取り組みを進め、第5期中期計画に掲げるビジョン「憩いの汀」の実現に向けて取り組んでいきます。

まず、法人神戸地区各事業所のご利用者を中心に約300名の計画相談支援サービス(サービス等利用計画)の提供を通じて、ご利用者ご家族お一人おひとりの希望する暮らしに向けて必要な福祉サービスの利用調整や丁寧な情報提供を心がけます。さらに、ご家族の高齢化など思いがけない生活上の変化や困りごとが起こった際にも、ご利用者の意向に沿った速やかなサービス調整を図り、不安が安心となるよう適切な相談支援に努めます。

さらに、8050問題という大きな社会的テーマに関連する親なき後の安心・安全な生活を支援するため、成年後見制度の申立て支援、円滑なサービス利用調整など、柔軟に対応出来るチーム支援体制の構築に努め、法人内各サービス事業所と日頃から緊密な連繋を図ります。

すでに多くの方々にご利用いただいている「Tunagari～あつまり処～」のコミュニティカフェでは、着実に地域の方々とのつながりや顔なじみの関係が育まれてきています。また就労を目指す障害のある方の体験実習の場として、就労系事業所で作られている自主製品の販売促進の場として、ほっとかへんネット須磨のネットワークの強みを活かした地域貢献の取り組みを協議する場として活用されていますが、今後は、様々な理由で社会とのつながりを求めているこどもの居場所や支援の場としての活用を具体的に取り組んでいきます。

新たな局面を見かえたコロナ渦による日常生活への影響は依然不透明な状況ですが、地域の関係機関とのつながりを大切にして、ご利用者、ご家族が気軽にご相談、ご利用していただける地域に開かれたセンターを目指します。

1. 事業概要

開設年月日：2016年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	特定相談支援	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2016年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
相談支援力の向上	定期ヒアリング、スーパービジョン	①教育、管理、支持的関わりによる実施	相談支援力の向上
専門知識、面接スキルの取得	外部研修への参加、内部研修の実施、チームアプローチの実践	①外部研修参加、実践に即した内部研修の実施	総合的な相談支援を担う人材の育成

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
チーム支援体制の構築	所内会議、ケース会議の活性化	①情報共有と支援力向上	チーム支援をサポートする体制の充実
組織内の業務分担を平準化する	役割分担表の作成と見直し	①業務の平準化と優先順位付け	WLBの推進とコスト削減効果
風通しの良い職場環境づくり	超過勤務削減、有給休暇取得、業務改善を推進	①業務の洗い出しと優先順位付け	職員が安定して生き生きと働くことのできる魅力ある職場
地域への積極的な情報発信	SNS（Facebook）の活用	①Facebookへ投稿	気軽に相談できるセンターとしての認知度アップ

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
権利擁護の推進	虐待防止チェックリスト、CS 調査を実施	①年 2 回実施	相談者の尊厳と意思を尊重した相談支援の提供
親なきあと支援の推進	お一人おひとりの実情に合わせ柔軟なサービス調整を支援(成年後見制度利用促進含む)	①ニーズ把握による支援の実施	ご利用者ご家族が安心できる地域生活を支える
災害等、非常時の備えと対応	災害時要援護者リストの作成と備蓄品整備	①備蓄品整備とリスト更新	災害等発生時に要援護者の支援に素早く対応

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
事業収入(計画相談支援給付費)の安定確保	計画相談支援の受任件数を一定維持	①300 件/契約件数	健全な収支バランスを目指し状況を改善
	モニタリング期間の見直し	①12 件/年	
持続可能な事業運営	BCP 計画の策定と更新	①計画作成と更新	災害等非常時における効率的な事業継続運営
体制加算の維持、個別加算の取得	所定研修の受講と個別加算の取得要件を正しく理解	①12 件/年	各種加算の確実な請求

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
法人神戸地区の身近な相談窓口としての役割を果たす	法人神戸地区各事業所及び関係機関との連携による丁寧な相談支援の実施	①基本相談の丁寧な対応	チーム支援体制の構築と連携支援の推進
地域福祉ニーズに向き合い対応する	ほっとかへんネット須磨に積極的に参画	①実務者会への積極的な参画	分野を超えた法人間の連携による地域福祉ニーズへの対応
	コミュニティカフェ (Tunagari) の活発な運営と地域福祉ニーズに応える取り組みの実施	①地域福祉ニーズに基づく貢献活動の実施(こどもの居場所や支援の場)	制度の狭間にある福祉ニーズへのきめ細やかな対応

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸友生園

施設長 井上 待子

神戸友生園の基本方針

1. 利用者の障害状況に応じたプログラムの提供に努めます。
2. 利用者のニーズに応えられるよう高い専門性を持って支援を行います。
3. 安心・安全に地域生活が営めるよう支援を行います。

第5期中期計画のビジョン

「行くのが楽しい」「利用して良かった」と思っただけの施設を目指します。

2024 年度の事業計画について

2024 年 4 月で創立 40 周年を迎えます。40 周年記念として行事、式典、事業を計画しております。記念事業は職員とプロジェクトを立ち上げご利用者の安心・安全に繋がるようなサービスを検討していく予定です。報酬には関係ない事業となると思いますが、ご利用者、ご家族の高齢化に対応できる内容にできればと考えています。行事に関しては 6 月に滋賀県への 1 泊旅行を計画し、式典はクリスマス祝会と併せて実施し作業ボランティアの方やご家族等を招待することを検討しています。旅行に関しては、ご利用者に楽しんでいただく事も大切ですが、職員が施設外でのご利用者の様子を垣間見ることで、ご利用者の理解が深まり必要な支援に繋がることも目的としています。ご利用者、職員にとっても有意義な時間となるよう計画を検討していきます。

第5期中期計画の2年目ですが当初立てていた計画内容の基本的な考え方「チーム支援の強化」は継続しますが、具体的な計画内容を変更し現状に合わせた計画としています。また昨年受審した第三者評価での指摘事項についても改善を試み、サービス向上のための「セルフチェックリスト」を試験的に導入したいと思います。セルフチェックリストは、日々の支援の中で個々の職員が施設全体のサービス向上を意識できているかなどをチェックするものですが、そのことを通して新たな支援方法や治具・補助具などの開発など、職員自身が支援に対して意欲的に取り組めるツールになることを期待しています。

財務の視点では、今年度報酬改定があり今まで以上に工賃の安定的な配分が求められることがわかりました。昨年同様以上の実績が残せるよう安定的に作業受注や自主生産品の販売に注力する必要があります。また、今年度視聴覚体制加算が取得できない状況になりましたが、2025 年度、2026 年度に再取得できるようご利用者の確保にも努めていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1984 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援 B型事業	40名	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2008年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
・他法人、施設の取組を学ぶ	・他法人、施設を見学し業務や支援などを学ぶ	①見学先を選定し見学を実施、自施設との比較から改善点を探る。	自身の着目点をひろげ、支援力を向上させる。
・実習評価を通してスキル向上を図る	・資格取得等の実習受入れを実施	①資格取得等の実習受入れ	実習指導の実施により、普段の仕事目線とは異なる幅広い視野を養える
・専門性の向上	①キャリアにあった研修受講 ②支援力の確認	①ア法人内、外の研修受講 イその他研修情報を職員と共有 ②サービス向上セルフチェックリストの作成と活用	①ア研修受講でキャリアに伴う資質の向上を期待 イ個々の専門性の向上 ②自己覚知を高めサービスの向上につなげる

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
職員の役割の明確化	役割分担・業務量の現状を確認し、改善する	①作業・支援をトータルで管理する体制を作る	①俯瞰的に全体をコーディネートすることで、業務の偏りを無くし、記録等が時間内に作成できるようになる。
オリジナル商品（お茶販売）販路拡大	商品の販売ツールを作成し活用する	①パンフレットの作成 SNS 活用についての検証を実施	①不特定多数の顧客にオリジナル商品を知っていただく
各種マニュアルのブラッシュアップ	職員会議で各マニュアルを確認し必要に応じて更新する	①3種類（防災、防犯、作業）のマニュアルについてブラッシュアップする	①有事の際、実際に活用できるマニュアルを保有できる

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
安定した作業量の確保	新規作業の獲得	①関係 8 企業から新規作業獲得（2種類）	①工賃の維持向上と安定した作業提供で支援の質の向上

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
家族の交流と学びの場の提供	家族交流と研修会の実施	①ご家族からの意見や現状必要な情報を家族に伝える研修を実施しアンケートをとる ②交流を目的とした企画を実施しアンケートをとる	①施設の情報を提供ができ、ご家族の思いやニーズを把握する ②家族間交流の促進を図り、共に学ぶ事で園との一体感を構築する
利用者の将来に向けた支援の実施	GH 見学会や勉強会の実施	①法人内・外の GH への見学 ②利用者向けの勉強会(金銭管理) 実施	①GH 生活をイメージし易くなる ②金銭管理に必要な知識の習得
利用者の充実感・達成感の向上	①オリジナル商品(ギフト商品)を通して充実感を高める ②創業 40 周年記念事業の取組 ③支援の強化	①ギフト商品のパッケージ選定や、ラインナップ選定に利用者の意見を反映させる ②ご利用者のニーズにあった新たな取り組みを始める為のプロジェクト立ち上げる ③個別支援計画・モニタリングの事前会議議事録のフォームをリニューアルし、より議論内容を明確にする。	①主体的な関わりで参加意識の向上、達成感、充実感の向上を図る。 ②利用者満足度が高まり、安心感も強まる。 ③職員が支援計画を共有することが容易になる。
関係機関との連携強化	利用者を取り巻くネットワーク間の関係構築	①計画相談支援事業所やその他関係機関と情報の共有を随時行う	①関係機関の役割等の把握と関係の構築により、利用者には有効な情報の提供

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
支出削減について職員の意識を継続して保つ	職員会議で月毎の経費を分析し伝える	①事務費、事業費、作業経費の月毎支出表を作成し共有	①事業コストについて理解が深まり、コスト意識が向上
新規利用者の獲得	相談機関・特別支援学校進路担当との情報共有	①3 名の新規利用者獲得	①新規利用者 3 名の獲得

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
出勤状況をもとに利用率を向上させる	ご利用者の出勤状況を職員間で共有し、個々の利用者へアプローチする	①月毎の出勤表を元に状況を確認し、職員の意識を高め利用者への支援策を検討する ②視聴覚体制加算の再取得に向けた実績確保	①週 5 日利用されていないご利用者に対して、ご利用者の状況に合わせながら利用日数増に向けたアプローチを実施する ②次年度加算取得する。

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
障害に対する啓発拠点として認知度を高める	友生園の情報発信をする	①SNS ツール作成（6 月運用）し、月 1 回の更新 ②あどあど市を計画的に実施	①活動を SNS で発信することで、ボランティアの応募がある ②地域交流の場となり、地域ニーズを把握する
地域との交流を深める	須磨区内で実施されるバザー等への参加	①各種バザーへの参加	①地域との交流機会の創設と施設認知度の向上
福祉学習の機会提供	各種学校からの福祉学習や見学の受け入れ	①専門学校、小、中学校からの福祉学習・見学の受け入れ	①福祉学習機会の提供による地域貢献

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホーム南落合
施設長 井上 待子

グループホーム南落合の基本方針

1. 利用者一人一人の基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者の働きたい思いを大切に「その人らしい暮らし」を支援します。
3. 安心・安全な生活が送れるよう環境づくりを行います。
4. 地域と連携し、地域に根差したホームとなるように努めます。

2024 年度の事業計画について

2024 年 10 月で創立 5 周年を迎え、ご家族を招いて食事会を計画しております。昨年度は大きく体調を崩されるご利用者もなく過ごす事が出来ました。少しずつ高齢化が進み、生活面の支援が大きくなってきていますが、世話人との情報共有を行いながら安心した生活を提供できるよう努めていきます。

ほとんどのご利用者がガイドヘルパーを利用することができ、余暇の充実や必要な医療機関への受診などが出来るようになりました。

人材育成の面で、ご利用者への対応方法など世話人によって違いがみられることもあります。不適切な関わりにならないよう、支援方法などを理解してもらう機会を設けます。

1. 事業概要

開設年月日：2019 年 10 月 1 日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設事業（第 2 種）	共同生活援助	5 名	身体・知的障害者	2019 年 10 月 1 日

2. 第 5 期中期計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	安心・安全な環境の提供	①利用者の状況に合わせた環境整備の実施 ②利用者の支援を統一した支援の実施 ③移動支援事業所と連携し、余暇活動を利用者に併せて提案
	権利擁護のための支援	①世話人・生活支援員への研修実施「障害特性の理解」 ②虐待防止チェックリストの実施（2 回/年）
	健康管理	①健康観察を行い、受診時の状況を訪問看護事業所・移動支援事業所と情報共有 ②健康状態について世話人間で情報共有

区分	課題	具体策
QOL	マニュアルの整備	①世話人業務マニュアルのブラッシュアップ
	地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加
	防災対策	①避難訓練の実施（2回/年） ②緊急通報装置操作訓練の実施 ③備蓄品の確保（水・食料を6人分×3食分）
財務	利用率の安定	①365日のサービス提供と、利用率90%維持
	バックアップ機能の体制整備	①緊急時の神戸友生園による迅速かつ臨機応変な対応
人材育成	基本理念の浸透	①世話人への内部研修の実施 ②法人研修への積極的な参加
	専門性の向上	①世話人・生活支援員の外部研修への参加

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸光生園
施設長 木南 仁

神戸光生園の基本方針

1. 「隣人を自分のように愛すること」の具現化を目標に、法人の基本理念に掲げられた行動規範「個別支援の推進」「利用者の人権擁護」「職員の専門性の醸成」「地域社会との連携」を中心テーマとして支援に努めます。
2. 「利用者の笑顔」をひとつの評価の基準にし、より良いサービスの提供を目指します。
3. 利用者ひとり一人の可能性、能力、個性が発揮できる支援を行い、そのための職員の専門性の向上を図ります。

第5期中期計画のビジョン

利用者・家族・職員・地域の人達を笑顔にできる施設を目指します

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の2年目で計画に沿った内容をそれぞれのチームによる実践を継続していくことが大前提ですが、取り組みが遅れているものなどについては修正を図ります。また、Withコロナと言われていますが感染拡大には最大限の注意を払いながら通常活動を継続します。地域との交流として「ひかりマルシェ」や「防災イベント」も継続していきます。コロナで途絶えていた近隣小学校との繋がる取り組みが昨年度できたこともあり、コロナ前とはまた違った形で交流ができればと考えています。

大きく変更することとしてサービス提供時間を8時30分から16時までとし、ご利用者がより充実した活動ができるように努めていきます。生活介護事業では積極的に和太鼓や創作活動の発表の機会を提供していきます。就労継続支援B型事業では、引き続き舞子公園やターミナルなどの清掃活動のほか、室内作業の充実をさせ安定した工賃収入をめざします。ご利用者がひとりでも多く元気に活動や作業に参加することで、ご利用者の笑顔が多くみられるようにしていきます。結果として健全な収支になることをめざします。特に新規のご利用者の獲得に向けては特別支援学校のほかに、計画相談支援事業所や放課後デイサービス事業と関係を構築し、実習や見学を積極的に受け入れていきます。昨年度から実施している体験会も特別支援学校の長期休暇の時期に行い、将来に向けてご利用につながるよう取り組みます。また、ご利用者の特性に合わせた居心地のよい空間となるように環境整備を計画していますが、具体的なイメージができるように進めていきたいと考えています。

大きな自然災害や新型コロナウイルスのような感染症が発生した際にもグループホームのバックアップ施設としての機能もあることから事業を継続していく必要があります。そこで職員研修などを定期的に行い、検証、見直しをしていきます。また、職員の専門性の向上についてもチーム内で検討し、外部への研修に参加するだけでなく内部研修も実施します。ワークライフバランスが整い職員が元気に働くことができるような神戸光生園をめざしていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1985年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	57名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	33名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援	—	知的障害者	2018年10月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
研修を通して専門性の向上に取り組む	外部講師による施設内研修実施	①外部講師による研修実施（上期調整・下半期実施）	学びの機会を増やし職員のモチベーションアップ
	定期的な内部研修の継続	①内部研修実施（2回/年）	
実習指導を通じた福祉職の育成	ソーシャルワーク実習指導の継続	①新カリキュラム用の実習予定表作成とアップデート研修の受講	新カリキュラムに対応した実習の実施
定着できる育成システムの構築	新任職員向けハンドブック作成と活用	①ハンドブック案の作成と試行（9月）	ハンドブック案の完成

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
施設の情報発信の充実	施設利用につながる広報の実施	①看板の改装計画延期（2025年度再開予定）	看板改装計画完成
		②SNSによる情報発信（随時）	施設の認知度の向上・魅力発信
関係機関と連携した支援プロセスの構築	計画相談と連携した支援の実施	①計画相談と連携した個別支援計画の策定（随時）	包括的な支援の実践
	支援記録の管理方法の改善	①個人ファイル作成と活用（6月）	利用者情報の一元管理
業務体制の再構築	業務改善を図りゆとりある業務体制を作る	①業務改善の実施（上半期：業務洗い出し、下半期：実践）	時間外勤務の削減 ゆとりある業務の実現

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
社会とつながる活動の充実（販売と創作活動）	ネット販売の充実	①商品の定期的な販売とネット販売の充実（9月）	10点の商品登録
	デジタルアートへの着手	①デジタルアートの研修実施（上半期）	職員のデジタルアートの基本操作の習得
	和太鼓を主とした地域活動への参加と他事業所との交流	①和太鼓演奏を通じた地域との交流（9月）	和太鼓演奏を通じた活動の場の充実
個別ニーズに対応できる支援環境の整理	快適な活動空間の提供	①活動場の改装見取り図と予算の作成（2月）	活動場の改装見取り図と予算の完成
家族と施設の情報共有方法の構築	連絡用アプリの活用	①連絡用アプリの登録と試行（上半期）	連絡用アプリの試行

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
収支に見合う収入の確保	新規利用者の確保	①年度内に2名の利用者確保（就労B:1名、生活介護1名）	年度予算の達成 安定的な事業の継続
	・年間269日の確実な開所（予め予備日を決める）	①開所（269日）の実施と予算管理の徹底 ②事業形態の検討	
修繕計画を立案して施設の魅力維持	10年間の修繕計画を立て必要な費用を算出	①外壁修繕工事の実施（補助金交付時3月完了）	修繕計画の完成（補助金交付時）
	計画的な積立金の創出	①固定費の見直し（経費削減）	必要な積立金の積立

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
アウトリーチの手 法で学校との関係 作りを行う	神戸光生園を小 中学生に知って もらう	①小中学校との交流の実施 (下半期)	学校との関係構築
ボランティアの活 用による活動の充 実を図る	ボランティアの 受け入れ体制と 活動の充実	①ボランティアによる活動 への参加 (和太鼓・園芸・ミニコンサ ートのボランティア)	ボランティアによる 活動実施
地域とつながる活 動の定着と充実	ひかりマルシェ の充実	①広報活動の拡充 ②イベントの実施(7月)	ひかりマルシェの来 園者の増加

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームみなみたもん
管理者 木南 仁

グループホームみなみたもんの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」が実現できるように支援します。
3. 安心して安全な生活が送れる環境づくりを行います。
4. 地域の一員としての役割を担えることを目指し、「障害理解への啓発」に努めます。

2024 年度の事業計画について

開設 11 年目を迎え、コロナの感染拡大こそありませんでしたが、昨年度感染したご利用者は帰省して自宅で過ごしていただきました。しかし、グループホームみなみたもんの多くのご利用者は高齢化していることもあり帰省をしない方がほとんどです。これまで通り状況に応じて受診の付き添いを実施するだけでなく、余暇支援のために移動支援事業所との調整を行い、その人らしい生活ができるように支援を継続していきます。一方、大きな自然災害が発生した際にも事業を継続していく必要があるため、職員間でグループホーム会議の時間を利用して、研修、検証をしていきます。また今年度は常勤職員を配置し職員体制を整えることで、様々な状況にも対応できるように努めていきます。

県営住宅をグループホームとして活用していることから地域との連携を実現するために垂水区グループホーム連絡会で情報交換をしていきます。改めて地域との関係作りに取り組み、ご利用者が地域の中で安心して暮らせるホームであり続けることをめざします。

1. 事業概要

開設年月日：2014 年 5 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	5 名	知的障害者	2014 年 5 月 1 日

2. 2024年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	生活環境の充実	①入居者家族（後見人・保佐人）との情報共有を行い良好な関係維持 ②利用者が安心して過ごせる職員体制の整備 ③関係機関（移動支援事業所）と協調して余暇支援の充実
	健康管理	①健康状態の把握・高齢化への対応 ②体調不良時の日中支援や通院支援
	地域との連携	①地域の一員として自治会行事へ積極的な参加 ②自治会へ役員として参加 ③垂水区グループホーム連絡会に参加
	防災対策	①年2回の避難訓練・通報訓練の実施（6月, 11月） ②年1回の防災訓練の実施（11月） ③BCP(防災・感染症)の研修、訓練（6、11月）
財務	経営の安定	①帰省の安定と利用率90%維持 ②修繕に備えた積立金の確実な計上
	堅実なバックアップ施設	①緊急時に神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応の実施
人材育成	基本理念の理解	①神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施（1回/年）
	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（1回/年） ②月1回定例の世話人会議を実施、支援方法や利用者対応についての相談を実施 ③年2回の虐待防止セルフチェックの実施

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 グループホームふくだ

管理者 木南 仁

グループホームふくだの基本方針

1. 利用者が自分の意思で暮らすことができ、基本的人権が守られる支援を行います
2. 利用者がお互いを尊重し、助け合って生活できるような毎日を目指します
3. 1人ひとりの個性を認め、プライバシーを重視した生活を提供します
4. 地域の中で、社会の一員として「ふつうの暮らしを楽しむ」事を支える支援をします

2024 年度の事業計画について

開設 8 年目となるグループホームふくだは、昨年度は幸いにも新型コロナウイルスの感染が拡大することなく過ごすことができました。また、日中活動事業所の変更が生じたご利用者が 2 名おられ、送迎方法などにも変更がありましたがそれぞれに対応しています。引き続き体調をみて早めに受診同行を行うなど、どのような状況でも迅速に対応できるように努めていきます。そのためには、夜間帯に緊急事態が発生した時にも対応できるように職員間でマニュアルの確認をしっかりと行っていきます。併せて障害特性を理解し職員の専門性を高めるために、グループホーム会議の機会を利用して短い時間ですが研修を重ねていきます。

地域との連携を実現するために、まず垂水区グループホーム連絡会で情報交換をしていきます。そしてできるだけ地域行事（夏祭り）などに参加し、ホームを見学してもらえるように自治会との関係作りを取り組み、利用者の皆さんが地域の中で安心して暮らせるホームであり続けることをめざします。

1. 事業概要

開設年月日：2017 年 5 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第 2 種）	共同生活援助	10 名	知的障害者	2017 年 5 月 1 日

2. 2024年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	生活環境の充実	①成年後見制度の活用を奨励 ②家族・後見人・ガイド・事業所など関係機関との関係性維持・向上 ③利用者個々に配慮した生活環境と生活スタイルの提供
	マニュアルの整備	①業務効率化のために業務マニュアルの定期的な更新実施 ②利用者の個別支援マニュアルを基礎として統一した支援の実施とホーム会議での共有と検討の実施
	地域との連携	①地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃実施(随時) 地域行事(夏祭り)等への活動に参加(8月) ②福田地域総合防災訓練に参加(10月) ③垂水区グループホーム連絡会に参加 ④日常的な地域住民との関りを大切にしながら苦情について迅速に対応
	防災対策	①年2回の避難訓練の実施(5月,9月) ②年1回の防災訓練の実施(10月) ③BCP(防災・感染症)の研修、訓練(6月,11月)
財務	経営の安定	①帰省の安定と利用率90%維持 ②修繕等に備えた積立金の計上
	業務省力化の推進	①業務日誌とケア記録でのPC活用の検討
人材育成	基本理念の理解	①神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施(1回/年)
	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施(1回/年) ②サービス管理責任者、管理者による月1回の支援会議の実施、支援方法や利用者対応についてのサポート ③年2回の虐待防止セルフチェックの実施

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸明生園
施設長 山本 隆志

神戸明生園の基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 「あたりまえの暮らし」と「その人らしい暮らし」の実現を目指します。

第5期中期計画のビジョン

ご利用者が安心して生活できる施設の実現、 高齢知的障害者がその人らしく暮らせる場所
関わる全ての人が明るく、楽しく未来に進めるような施設

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の2年目にあたる今年度事業計画では、コロナ禍の停滞をさらに一段階脱せられるように、以下の取り組みをしていきます。

①職員の支援力向上のための具体的な支援方法の学習に取り組み、現実の支援で有効に活用できるスキルの獲得に着手していきます。具体的には、強度行動障害を有するご利用者への適切な対応を更に進めていきます。個々のご利用者への支援の見直しを外部の意見を取り入れながら実行していきます。外部機関との関りで職員にとって良い緊張感が保て、モチベーションアップにも繋がることを目指します。

②高齢重度化のご利用者への支援を進めていますが、ご本人にとって安心できる生活の場を施設内、外含めて検討していきます。また、検討に際してはご利用者の希望をしっかりと汲み取った上で、理学療法士の意見、相談員の意見を参考にしていきます。

③医療との連携を強めるために、地域の医療機関との関係性を深めていきます。

④将来の働き手不足に対応するために、ご利用者の直接支援以外で業務省力化できるものは IOT・ICT 機器を活用して取り組んでいきます。

以上の④項目を中心として年度計画の着実な実施を行っていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1991年9月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	知的障害者	2015年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	80名	知的障害者	2015年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	10名	知的障害者	2015年10月1日
公益事業	日中一時支援	—	知的障害者	2015年10月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
研修システムを構築する	職制育成プログラム 他施設交流プログラムの作成と実施	施設内研修の実施（6回/年） 他施設見学の実施（2件/年）	人材育成とやりがいを見いだせる環境が整う
人材確保	学校との連携作り	実習受け入れ学校への訪問実施（2件）	実習から就職へ人材確保
専門性の向上	コンサルテーション実施	コンサルテーションの実施	客観的な支援展開からやりがいと自信へつながる

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
通所部の体制見直し	通所部の体制を見直し、効率化を進めます	通所部の活動場所内容の充実（環境整備と活動拡大 2件以上/年）	通所部の活動内容が充実しサービスの向上につながる
IOT活用推進	IOT・ICT機器も活用による業務省力化の実施	記録システムが持つ機能の活用を行う（2項目以上/年）	転記を減らすことで業務省力化につながる
マニュアル類の整理	利用者個人マニュアル	各個人利用者のマニュアルの改訂作業に取り組む（年度内）	個人マニュアルの整備と更新ができる

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
ライフステージに応じた支援の提供	高齢重度化への対応	理学療法士との連携により、安全な生活ができる （新提案 12件/年）	個々の状態にあった安心できる生活が提供できる
生活空間の整理と整備	寮再編成の案作成	費用対効果をしっかりと考えに入れた寮再編成案を再度作り直します（年度内）	現状にあったユニット編成と効果的な改修が考えられる

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
施設改修費用確保	積立金の継続実施を行う	3000 万円を目標として継続的に積み立てられる	施設の永続に必要な費用確保のために着実な積立ができる
稼働率の安定維持	欠員状態の日数を無くす	年間 30 日以内の欠員状態を目指す（退所による欠員数 30 日以内/年）	欠員状態が無くなる

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域資源として実習生受け入れ	学生実習生の受け入れを実施	年間 2 名以上の受け入れを行う	地域資源としての実習先として定着
短期入所の受け入れ	新規、緊急短期入所を受け入れます	新規利用者、緊急受け入れを行う（各 12 日/年）	地域の緊急事案に対応できる
しあわせの村内連携強化	村内の関係再構築しボランティア受け入れます	ボランティア受け入れを順次再開します（時期ごとに感染症の状況に合わせて）（24 名/年）	ボランティア団体とのつながりが保てる

2024年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 共同生活援助 ケアホームきたすま
管理者 山本 隆志

ケアホームの基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 利用者が地域の主体であることをともに感じる事ができる支援を目指します。

2024年度の事業計画について

小規模で家庭的な雰囲気の特徴の「きたすま」で地域生活を継続して提供していきます。

地域資源の活用を進めていくために、外部との連携を深めます。具体的には、バックアップ施設にのみ頼るのではなく、相談支援機関との関係を強めていき、ご利用者の生活が地域に開かれたものとなるようにしていきます。

高齢化しているご利用者が笑顔で地域生活を継続できるように、落ち着いた流れの支援提供を行います。

感染症への不安から、減少していた外出については、ご利用者の意向を聞きながら少しずつ増やしていきます。

医療とのつながりについては、積極的な受診を行い、ご利用者個人に合わせたフォローをいただけるように、支援者が付き添いを行っていきます。

静かに、落ち着いて、笑顔で生活できる空間を大切に守りつつ、支援を進めてきます。

1. 事業概要

開設年月日：2009年3月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設事業（第2種）	共同生活援助	5名	知的障害者	2005年10月1日

2. 2024年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
Q O L	高齢・重度化への対応	① バックアップ施設に限らず連携を深めます 神戸明生園及び、相談センター、外部事業所との連携強化を継続 ② 支援体制の見直しを行います（複数人配置の時間について見直します）
	利用者の安全の確保	① 火災訓練をバックアップ施設と連携し実施します ② 医療とのつながりを強くしていきます
	地域生活の定着	① 近隣との良好な関係を維持します（挨拶・駐車 で迷惑をかけないなどの配慮） ② 移動支援等外部サービス利用促進を行います
財務	予算に沿った収入の確保	① 利用率安定維持します
	設備改修・永続的運営に向けて	① 積立金の継続的な実施継続
人材育成	専門性の向上	① オンライン研修の提供継続 ② 虐待防止の徹底（個別に研修実施） ③ 身体拘束ゼロの継続 ④ 個別支援計画内容の実効性の向上 ⑤ 新規職員採用による強化（夜間帯含む）

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
神戸市立ワークセンターひょうご
しごとサポート中部
神戸障害者就業・生活支援センター
障害者雇用就業・定着拡大推進事業
所長 森崎 康文

センターの基本方針

1. 法人の基本理念のもとに、標記の4事業を一体的・有機的に運営する。
2. 障害者が「1人でも多く、1日でも長く」一般就労できるよう支援する。
3. 個々の訓練生・相談者に適した就職支援・定着支援を継続的に進める。
4. 関係機関との連携の強化に努め、障害者の一般就労の伸展を目指す。
5. 神戸地域における障害者就労支援の中核施設として、その専門性の向上を図る。

第5期中期計画のビジョン

就労支援を通して、すべての利用者が”自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

2024年度の事業計画について

まず、第5期中期計画の重点実施項目としました、ワークセンターひょうごの安定的な事業運営について、3つの方針を掲げます。

1つ目は、営業活動の強化です。関わりのある特別支援学校すべてを訪問し、顔の見える関係を築きます。また、病院（主に精神科、心療内科、リハビリテーション科）、職業センター、ハローワーク、障害者相談支援機関等の未開拓な機関への営業を実施し、支援が必要な方の利用につながるよう努めます。

2つ目は、受け入れる障害種別を知的障害に限定せず、多様な障害種別の方を受け入れます。2023年度は、知的障害と重複している方を含みますが、弱視、聴覚障害、発達障害、精神障害、自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群）、言語コミュニケーション障害、血友病A、てんかんなどの様々な障害種別の方を受け入れました。

3つ目は、上記2つの取り組みを実施しながら、持続的な事業運営が可能かどうかの見極めを行います。上半期の途中入所者数、特別支援学校3年生の進路の動向を確認するとともに、定員に対する利用率が年間を通して67%（20名/月）を切る場合で、2025年度も改善が見込めない場合は、定員数を20名にする手続きの準備を行います。

次に、しごとサポート中部をはじめとする就労相談部門については、支援が必要な方に対し、誠実かつ質の高い相談支援が提供できるよう事業運営を行います。具体的には、①障害のある方の就労支援・職場定着支援、②企業の障害者雇用促進、③障害者雇用における支援ネットワークの構築に力を入れ、障害のある方、企業、関係機関に対して、基幹型機能・ハブ機能を果たしたいと思えます。

1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労移行支援事業 －神戸市立ワークセ ンターひょうご－	30名	知的障害	2006年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労定着支援事業	－	知的障害	2018年8月1日
公益事業(市委託)	相談支援事業 －しごとサポート中 部－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	1996年4月1日
公益事業(国委託)	相談支援事業 (雇用安定) －神戸障害者就業・ 生活支援センター－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日
地域生活支援事業 (県委託)	相談支援事業 (生活支援) －神戸障害者就業・ 生活支援センター－			
公益事業 (県補助事業)	職場開拓事業 －障害者雇用就業・ 定着拡大推進事業－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
人財育成への取 り組み	【共通】内部・外 部研修の効果的 な活用	①法人内研修への参加 ②内部研修の企画、実施 ③外部研修への参加	キャリアに応じた必要な 研修を受講し、必要な知 識を取得する 1名あたり、3研修以上の 受講を目指す
	【共通】職員面 談、スーパービジ ョンの実施	①年3回職員面談、SVの 実施	SVによる職員の支援力 向上 意見が届きやすい職場づ くり

	【共通】地域内の就労継続支援 B 型、就労継続支援 A 型、就労移行支援の訪問	①2 事業所／月以上の訪問を実施し、報告書を作成する	地域の社会資源と顔の見える関係の構築
ワークライフバランスを重視した働きやすい職場づくり	【共通】超過勤務の縮減	①超過勤務の状況確認、月 20 時間以上の超過者がいる場合は、原因確認と解決方法を検討する	仕事と生活のメリハリをつけ、心身の疲労の回復、生産性の向上を図る
	【共通】有給休暇の取得推進	①有給休暇の取得状況を把握。年 5 日以上を取得を確実に行う ②残日数が多い職員については、失効しないよう取得を推奨する	有給休暇の取得を推奨し、仕事と生活のメリハリをつけ、心身の疲労の回復、生産性の向上を図る
権利擁護の推進	【共通】虐待防止セルフチェックリストの実施	①虐待防止セルフチェックリスト年 /2 回 ②委員会報告（4・10 月）	職員一人一人の虐待防止への意識を高め、支援姿勢を自ら振り返る
	【共通】虐待防止研修への参加	①虐待防止研修に適時参加	研修を受講し、障害者虐待防止にかかる知識を習得する
	【ワーク】虐待防止事例検討会の開催	①虐待防止事例検討会の実施	職員一人一人の虐待防止への意識を高め、支援姿勢を自ら振り返る

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
営業活動の強化	【ワーク】見学や体験等の受け入れ強化	①見学・体験等の積極的な受け入れ	新規利用者の獲得 (年間 5 名以上目標)
	【ワーク】学校・支援機関等訪問の強化	①特別支援学校、区役所、就労支援機関等に営業活動（年間 30 か所以上）	新規利用者の獲得 (年間 5 名以上目標)
	【ワーク】未開拓な機関への営業活動	①未開拓な機関へ営業活動を実施する（10 か所以上/年）	新規利用者の獲得 (年間 5 名以上目標)

	【共通】HP 更新	①月 1 回以上の HP 更新	HP を通じ、活動内容の広報による、利用者の確保
訓練生の職業体験を充実させる	【ワーク】体験実習先の開拓	①体験実習先の開拓	外部訓練の充実
特別支援学校との連携強化	【共通】特別支援学校の見学	①特別支援学校の見学	特別支援学校の教育・支援の内容を知り、卒業後センターへ入所した方へシームレスな支援ができる
マニュアルの整備	【共通】業務マニュアル、支援マニュアル等の更新	①マニュアルの整備	マニュアルの整備による円滑な業務遂行
委託事業の確実な運営	【就労】基本相談の実施、職場訪問による定着支援、就職者の輩出	①基本相談 7200 件/年 ②職場訪問による定着支援 300 件/年 ③就職者 75 人/年	障害者雇用の促進
	【就労】中部地域障害者就労推進ネットワーク会議の開催	①中部地域障害者就労推進ネットワーク会議の開催（年 3 回）	神戸市中部地域（中央区、兵庫区、長田区、須磨区）における就労支援機関の連携強化
	【就労】現況調査（葉月作戦）の実施	①現況調査（葉月作戦）の実施（年 1 回）	登録者へアウトリーチを行い、支援につなげる
	【就労】ピアサポート活動の実施	①ピアサポート活動の実施（年 2 回）	ピアサポート活動を通じて、就労促進を図る
	【就労】しごとサポート関連の会議への参加（しごとサポート連絡会議、しごと開拓員連絡会）	①しごとサポート連絡会議 ②しごと開拓員連絡会	神戸市、市内 4 つのしごとサポートとの連携強化、およびスーパーバイズ
	【就労】外部機関主催の会議への参加	①兵庫労働局、職業能力開発施設、兵庫障害者職業センター等が主催の会議に出席	障害者雇用に関わる支援機関との連携強化

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
質の高い就労支援及び地域生活支援の実施	【就労】同フロアの相談窓口と連携し、重層的かつ専門性の高い相談支援を実施	①各部署と情報共有を通して連携を図り、必要な部署と協働して支援を行う	相談者に寄り添った支援の提供
障害がある方の職場定着支援の実施	【共通】障害者同士がコミュニケーションを図ることができる職場定着支援の実施	①在職者交流会 (3 回/年) ②ドリーム (1 回/月) ③ほっとピナー (随時) ④同窓交流会 (1 回/年)	障害のある方同士の交流
	長期的かつ丁寧な職場定着支援	①ロングサポート ②ロンガー作戦	障害のある方が長期的に職場に定着できる
支援の質の向上	【共通】アセスメントツールの導入、SST の導入	①厚生労働省編 一般職業適性検査の導入 ②SST の学習	根拠のある支援が提供できる
	【共通】顧客満足度調査の実施	①顧客満足度調査の実施 (年 1 回)	サービスの振り返り、支援力向上

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
安定的な事業収入の確保	【ワーク】事業運営体制の見直し	①定員数見直しについての検討	利用者確保、定員数の見直し
	【ワーク】利用者数、利用率、就職者の職場定着率の向上、土曜開所の実施	①月平均利用人数 19 名以上 ②出勤率 80%以上 ③上半期 7 名、下半期 6 名の就職者を輩出 ④269 日/年の開所	利用者数、利用率の向上 就職者輩出によるより高い基本報酬単価の取得 法定年間稼働日数の開所
	【ワーク】途中入所者の確保	①5 名以上の途中入所者を確保	定員の充足
	【ワーク】就労定着支援の実施	①就労定着支援事業の実施 (月平均 25~30 件の稼働)	就労定着率の向上
	【ワーク】ジョブコーチ支援の実施	①ジョブコーチ支援の実施 (月平均 3 件以上の稼働)	ワーク卒業生、企業の就労環境整備支援、困りごと解決

委託事業の誠実かつ効率的な遂行	【就労】超短時間雇用の創出	①超短時間雇用にかかる支援や情報の収集	超短時間雇用での就職者輩出、情報収集
	【就労】神戸市トライアル実習、神戸市障害者訓練雇用事業の実施	①トライアル実習の事務、支援の実施 ②神戸市障害者訓練雇用事業の実施	実習や訓練的雇用の機会を確保する

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
地域福祉の拠点としての役割を果たす	【ワーク】見学、体験実習・利用、職場体験、トライやるウィークなどの積極的受け入れ	①見学等の受け入れ	障害者就労支援機関の役割の周知
	【ワーク】地域の清掃活動を通して、地域に貢献するとともに障害の周知を実施	①清掃活動の実施	奉仕活動を通じ、社会的に役立つ活動に取り組む
	【共通】障害者雇用の啓発	①9月、12月に障害者雇用啓発活動を実施	障害者雇用の周知および就労確保
就労相談機能の充実 ～障害者、企業、関係機関に対して、基幹型機能、ハブ機能を果たす～	【就労】研修の開催、研修講師の受託	①ラーニングセッション ②研修講師派遣	地域の就労支援機関等へのスーパーバイズ
	【就労】ネットワーク形成のための会議を開催	①神戸地域障害者雇用・就業支援ネットワーク会議 ②就労移行支援部会 ③教育関係機関就労支援連絡会	地域の支援ネットワークの強化・充実
	【共通】事業主（企業）に対する相談・支援、及び職場開拓を実施	①相談件数 1200件/年 ②職場開拓 24件/年	企業からの障害者雇用にかかる相談を受け、障害者雇用の促進を図る
	【共通】各区自立支援協議会への参加	①自立支援協議会への参加	須磨区、兵庫区の就労関係機関との連携強化

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 グループホームアリエッタ北須磨

管理者 森崎 康文

グループホームアリエッタ北須磨の基本方針

1. 利用者一人ひとりの人権と主体性を尊重した支援を行います。
2. 利用者が元気に職場等に出かけ、安心して帰って来ることができる“心の拠りどころ”となり、「一日でも長く」働き続けられるように支援します。
3. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるよう努めます。

第5期中期計画のビジョン

就労支援（と生活支援）を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

2024 年度の事業計画について

利用者のプライベートな時間や空間を大切にしながら、必要に応じて職場や生活面での困りごとに対応することで、障害のある一人ひとりの職業生活をサポートしていきます。

まず、食事提供の方法について見直しを行います。コロナ禍において、食事を自室へ配膳し、摂取いただいておりますが、一部のご家族より、食堂での食事提供を再開してほしいと要望がありました。全利用者及び家族に食事提供の方法について確認を行い、希望される方については、食堂で食事ができるよう、環境整備やルール作りを行います。同時に感染症対策も講じ、感染症拡大時は、部屋食にする、落ち着けば食堂での提供に切り替えるなど、柔軟な対応を実施します。また、引き続き、利用者の生活力（洗濯、掃除、食器洗いなど）の向上に向けた取り組みを継続します。グループホームの生活を通して、生活力の向上を目指し、一人でも多くの方が一人暮らしなど次のステップの検討することにつなげていきたいと思えます。生活力という点では、夜間支援がない施設という性質からも、緊急時の対応力をつけるために、定期的に実施している避難訓練について継続し、緊急時の対応に対する入居者への意識づけを図ります。

また、定期的なスタッフミーティングの機会を設け、職員間の円滑な意思疎通を図るとともに、内部研修を実施し、標準化した支援の提供につなげます。

最後に、地域交流ですが、コロナ禍によりこれまで十分な取り組みができておりません。今年度の動きを見ながら、可能ならば友が丘及び多井畑地区の地域行事に参加し、アリエッタ北須磨が地域の一員として認知してもらえるように努めます。

1. 事業概要

開設年月日：2020年1月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2020年1月1日

2. 2024年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	生活環境の充実	①利用者個々に配慮した生活環境と生活スタイルの提供 ②家族・後見人・ガイド・事業所など関係機関との関係性維持・向上
	マニュアルの整備	①基本的な生活支援のマニュアル作成と更新 ②個別のスケジュール作成
	地域との連携	①地域行事等への活動に参加 ②日常的な地域住民との関りを大切にする
	防災対策	①年2回の避難訓練の実施 ②感染症対策における指針の整備、備品の補充と管理
財務	経営の安定	①帰省の安定と利用率の向上 ②修繕等に備えた積立金の計上
	業務省力化の推進	①業務日誌とケア記録でのPC活用
人材育成	基本理念の理解	①神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
	専門性の向上	①法人内研修への参加（職位別研修、理念研修）
	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（1回/年） ②年2回の虐待防止セルフチェックの実施

2024年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
ひょうご障害者相談支援センター
神戸市障害者基幹相談支援センター
神戸市発達障害者中部相談窓口
所長 森崎 康文

センターの基本方針

【ひょうご障害者相談支援センター】

1. 障害のある方（以下、「相談者」という）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が住み慣れた場所で暮らせるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を行います。
2. 支援者が困難を感じる事例への対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。
3. 障害の有無に関わらず、住み慣れた場所で安心して暮らすことができるよう、関係機関との協働のもと、区自立支援協議会事務局として協議会の活発な運営を担います。
4. 兵庫区障害者地域生活支援拠点として「見守り支援事業」では、障害者の見守りを各関係機関と連携しながら行い、相談支援機能と地域社会資源の連携体制の構築に取り組みます。また災害時の要援護者支援として基幹福祉避難所の避難訓練に参加し、「地域支援機能強化事業」では障害者の地域移行の推進、地域生活が継続できるよう支援します。

【神戸市障害者基幹相談支援センター】

1. 市内の特定相談支援事業者の統括および、区自立支援協議会と市自立支援協議会・神戸市施策推進協議会の連携に向けた後方支援等を行うことにより、神戸市の相談支援体制の強化に貢献します。
2. 兵庫県下の各圏域との協働を通して、人材育成を含めた神戸市の相談支援体制の拡充と強化、新カリキュラムに基づいた初任者研修、現任研修、主任相談支援専門員研修に協力します。

【神戸市発達障害者中部相談窓口】

1. 発達障害のある方（以下、「相談者」という。）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が自立した地域生活と社会参加ができるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を提供します。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。

第5期中期計画のビジョン

障害のある方の地域生活を支えるために常に相談者に寄り添った相談支援を行い、住み慣れた地域で安心した生活が送れるようにします。

2024年度の事業計画について

最初に障害者相談支援センターは、地域生活支援拠点の役割りとして相談支援機能と緊急時の短期入所等の活用、地域社会資源の連携体制の構築、地域移行支援強化事業として地域移行を推進し、関係機関とのネットワークの構築を図ります。また要援護者支援の一環として見守り支援事業、基幹福祉避難所との連携等地域とのつながりを強化する取り組みにも力を入れていきます。災害時要援護者支援として区内3か所の基幹福祉避難所と連携した避難訓練に参加し、障害者理解を深められるよう働きかけます。見守り支援事業では2回目のアンケート調査に基づきサービス利用につながっていない方を中心に訪問活動を行っていきます。また、地域ニーズの把握については、区自立支援協議会の部会活動の事務局としての役割を担います。子どもに特化した地域課題を検討する「子育て支援プロジェクト」は2年目を迎え学校や放課後等デイサービス等の関係機関と活発な意見交換を行っていきます。「ほっとかへんねっと兵庫」では積極的に実務者会や相談・災害支援プロジェクトに参画することで、他法人と協働して地域とのつながりを大切にします。実務者会や相談・災害プロジェクトへの参加、生活環境改善事業への協力を行います。また委託の調査業務では区との連携を密に行いながら、一般相談支援、計画相談支援を行っていきます。近年地域移行支援の実績はありませんが、必要な方にサービス提供ができるよう関係機関との連携に努めます。

次に、基幹相談支援センターでは、初任者研修修了者を対象にファーストレベル研修を行い、相談支援専門員の定着とフォローアップに力を入れていきます。また市内特定相談支援事業所の質向上のため「市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会」を開催し、相談支援専門員のスキルアップと事業所間の連携強化を図ります。少人数分散化で複数開催にすることで、一人でも多くの方が参加しやすいようにし、参加者自身がサービス等利用計画（モニタリング）の振り返りができるようにします。また神戸市療育ネットワークの委員として障害児支援施策の検討会議に参加し、課題の共有や施策の推進に協力していきます。今後も兵庫県下の圏域コーディネーター等と協働しながら、初任者研修の企画構成委員として相談支援体制の確立に貢献します。

最後に、発達障害者中部相談窓口では、市内4窓口の中心的な役割として、連絡会や研修会等のコーディネートを行います。兵庫教育大学や関西学院大学からの巡回支援では事例検討を行い相談員のスキルアップを目指します。また引き続き担当地区内4か所の地域活動支援センターと連携してケースの困りごとを共有できるよう定期的な連絡・訪問を続けます。グループセッションやペアレントトレーニングへの参加や、アウトリーチの一環として各種学校からの研修依頼にも積極的に協力し、若年層の発達障害の疑いがある方へのアプローチにつなげます。

1. 事業概要

開設年月日：2002年7月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	一般相談支援	—	身体障害児・者	2002年7月1日
	特定相談支援	—	知的障害児・者	
	障害児相談支援	—	精神障害児・者	
公益事業	神戸市発達障害者中部相談窓口	—	発達障害者	2009年7月1日
公益事業	神戸市障害者基幹相談支援センター	—	相談支援事業者	2012年5月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
相談支援の専門性の向上	内部研修の企画実施、外部研修への参加	①法人内研修への参加 ②内部研修の企画実施 ③外部研修への参加	全職員がキャリアに応じた必要な研修に参加（年2回以上）
職員育成、定着	定期的なSV、ケース検討	①年3回のSV ②朝礼時のケース共有、職員会議時のケース検討	個別ケースを通して支援力を高める（年3回）
権利擁護	虐待防止研修への参加、虐待防止委員会の検討結果を職員に周知徹底、虐待防止セルフチェックリスト	①虐待防止研修適時参加 ②委員会報告4、10月 ③虐待防止セルフチェックリスト年/2回	虐待に対する感度を上げ、支援者として権利擁護を推進する。研修に参加（全職員）

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
業務分担の適正化	調査件数の把握、割振り	①毎月各職員に適正な調査件数を割り当てる	効率的な業務推進と業務の平準化を図る
業務分担の適正化、進捗確認	サービス等利用計画の進捗確認	①計画、モニタリング、加算取得を確認 ②事務処理遅れをなくし、当月請求を確実にする	管理表に基づき各職員が進捗を意識する
進捗管理	月報、集計業務	①毎月10日までに神戸市に報告	毎月の報告を確実にを行い、実績を共有・把握
発達障害者支援	窓口連絡会、GS、ペアトレ、4窓口取りまとめ	①連絡会の取りまとめ、発達支援センターとの調整	委託事業の確実な遂行

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
基本相談、一般相談	相談者対応(未登録相談含む)	①職員間でのケース共有、記録作成	チームアプローチの推進
発達障害者支援	地域活動支援センターとの連携、ケース共有	①地域生活支援センターへの連絡、訪問	ケースを通して発達障害者の理解促進を図る
サービスの質の向上	顧客満足度調査	①年1回対象者へ調査	サービスの振り返り、支援力向上

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
ワンストップサービスの機能定着	各事業所間の共有	① 各部署と情報共有を通して連携を図り、必要な部署と協働して支援を行う	相談者ファーストの促進
個別ケースの把握	ケース記録の確認	① 日報確認、ケース共有（朝礼、職員会議）	記録に基づいた支援の実践
サービスの質の向上	アメニティーの充実、環境整備	① 担当者による定期的な見直しを行い、常に清潔で相談しやすい環境を提供する	利用しやすい事業所として、職場環境を改善する

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
計画相談、一般相談支援の取り組み	困難ケースの対応、契約者数増	① 計画相談（目標件数：29 件） ② 地域支援（目標件数：1 件）	ケースワークの実践を通して職員のスキルアップを図る
加算要件を満たす体制確保 個別加算の取得	事業所加算の取得、維持 個別加算の確実な取得	① 加算対象研修を受講 ② 個別加算を月/3 件以上を目標とする	事業所加算の維持により安定した収益を確保、個別加算への職員の意識向上
調査業務の遂行	委託調査業務（勘案、認定区分、移動支援、訪問入浴）	① 勘案 600 件 ② 移動支援 24 件 ③ 訪問入浴 1 件の委託業務の遂行	適正なサービスにつながるように公平中立な調査を実施委託事業を円滑に遂行する

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域生活支援拠点としての役割	基幹福祉避難所と連携した要援護者支援	① 基幹福祉避難所開設訓練に参加（3 か所）	災害時の要援護者支援の取り組み
	見守り支援事業（相談員連絡会、関係機関連携、訪問）	① 台帳に基づいた訪問、状況把握 ② 他センターとの情報共有	地域で見守り対象者を支えるネットワーク作り
地域生活支援拠点としての役割	地域支援機能強化（地域支援員連絡会）	① 施設、病院訪問 ② 研修企画 ③ 連絡会参加	地域移行に特化したネットワーク作り、支援者の意識向上

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
	緊急ショート受け入れ調整、相談	① セーフティネット機能として、受け入れ調整、相談	緊急時の受け入れ先確保により在宅生活の維持を可能にする
	ほっとかへんネットへの参画	① 生活環境改善事業 ② 実務者会 ③ 相談・災害プロジェクトへの参加	参画法人との連携により地域貢献につなげる
地域ニーズの把握と対応	身体知的相談員連絡会の開催	① 報告書取りまとめ、研修会を開催（年3回）	相談員のスキルアップを図り、ピアサポートの実践
地域課題の抽出	自立支援協議会事務局運営（運営員会、各作業部会、個別支援会議）	① 3つの部会（防災を考える部会、活性化部会、相談支援部会）、4つのプロジェクト（子どもプロジェクト、事業所プロジェクト、のりあいネットワーク、ハートンマルシェ）を運営し活性化を図る ② 個別支援会議の開催	地域のネットワーク作りを推進し、地域課題の解決につなげる
支援者への後方支援	市内特定相談支援事業者連絡会の開催	① サービス利用計画、モニタリング検証、行政説明により相談員の質を向上させる	相談支援専門員を育成し、計画相談の普及につなげる
相談支援体制強化	圏域コーディネーター連絡会で最新の動向、情報収集	① ネットワークを構築し、他圏域の動向、情報収集する	他圏域の動向を知り、神戸市と協働して相談支援の方向性を検討
	法定研修への協力（演習講師）	① 初任者研修、現任者研修に協力、相談支援専門員を育成する	演習講師として研修に参加、支援者の質の向上に貢献
発達障害者の理解と啓発	各種学校にアウトリーチを行い、関係各所と連携を図る	① 定時制高校、専門学校に発達障害者に対するアンケート調査、訪問、研修実施	若年層の発達障害者へのアプローチ

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 ひょうごデイサービスセンター
施設長 大嶋 信幸

ひょうごデイサービスセンターの基本方針

1. 利用者に重い障がいがあっても、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『笑顔と真心』で支援する。
2. 利用者の『人権を尊重』し、『喜びと感動』を生み出すサービス提供に努める。
3. 利用者と家族の悩みや課題をしっかりと受け止め、個別支援計画に基づき、『専門性とチームワーク』による『質の高い思いやりのあるサービス』を提供し、『地域社会に貢献』する。
4. 今までの手段や方法にこだわらず、人の持つ『知恵と無限の可能性』を信じ、『絶えず前進』することに努める。

第5期中期計画のビジョン

利用者・家族の心の拠り所となる事業所を目指します。

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画は、各計画の担当者の中からリーダーを決めて、リーダーを中心に責任者（職制）がフォローをしながら達成に向けて取り組みました。2年目となる今年度も引き続きリーダーを中心に、一つひとつの計画を確実に推進していきます。

特に力を入れて取り組んでいくことの一つは、個別支援の質の向上です。1年目は、法人総合職員研修の各施設の発表を視聴し、様々な利用者主体の支援から職員間で気づきや学びを共有しました。2年目は、視点を定めた研修プログラムの実施を通して、利用者の新たなニーズを見つけ出し、多職種が連携してアプローチの仕方を検討します。

次に、職員の知識・技術力に応じた人材育成については、研修のテーマを何種類か決めて、テーマに基づいて職員を振り分け、振り分けたメンバーの中から研修を受講し、受講後にメンバーに共有することで、知識・技術力の均一化に繋げていきます。また、基本的な介護技術や権利擁護などについては、職員が講師を務める勉強会を年7回開催し、全体の支援力の底上げを図っていきます。

そして、収支バランスの健全化に向けては、入浴、機能訓練、送迎の曜日毎の空き状況を明確にし、曜日毎の適正な受け入れができるように努めます。併せて、現状のサービス内容（送迎、入浴等）の拡充も視野に入れて検討していきます。

兵庫駅前にあるセンターとして長年課題となっている地域との関わりについては、前年度から始めた隣接するキャナルタウンイースト（市営住宅）のゴミ置き場の段ボール庫整理を継続することで、職員が地域と関わる機会を増やし、自治会との関係性を築いていきます。

これらの計画を円滑に進め、生活介護事業、重心事業、就労B事業、短期入所事業と多岐に渡る事業を一体的に運営していくには、職員間での協力体制が必要です。風通しの良いセンターにすることで、ビジョンに掲げた利用者・家族の心の拠り所となる事業所を目指します。

1. 事業概要

開設年月日：1996年5月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	25名	身体・知的障害者	2006年10月1日
老人デイサービスセンター（第2種）	共生型通所介護		要介護高齢者 障害者	2018年9月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	15名	身体・知的障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	重心・生活介護	20名	重症心身障害者	2012年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	短期入所	6名	身体・知的障害者	2016年4月1日
公益事業	日中一時支援		身体・知的障害者	2018年10月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
職員の知識・技術力に応じた人材育成	研修として必要なものを検討した上で、外部研修に参加	①必要と考えられる研修のテーマを6種類決めて、職員を振り分けて受講 ②受講後にメンバーで共有	受講内容を共有することで職員の知識・技術力の均一化を図る
	各事業所における業務の課題を抽出・分析・還元(研修・マニュアル更新等)	①各事業所（インクルージョン・生活介護・就労B）における業務課題を抽出 ②抽出した業務課題を分析し解決に向けて検討	①課題の解決 ②抽出・分析・解決のプロセスにより知識・技術力の向上
内部研修の充実（制度・知識・技術）	職員の知識と技術の向上	①内部研修の開催（年4回） ②勉強会の開催（年7回）	①知識や技術力の向上による全体の支援力の底上げ ②各担当者が講師を担うことで自己研鑽に繋がる

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
ひょうごデイ全体で業務内容を見直し、業務改善を図る	ひょうごデイ全体で協力できる体制づくり	①新たに協力できる業務の検討・実施	協力できる業務を増やす

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
誰もが取り組める ICT 化を目指し、業務の効率化を図る	DX 化への理解を深め、導入製品の検討を行う	①介護ソフトのデモンストレーションを実施 ②バリアフリー展等での情報収集	介護ソフトのデモンストレーションを実施することで、ひょうごデイに適した介護ソフトの選定を行う

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
個別支援の質を上げる	ニーズを把握する	①学びの視点を定めた研修プログラムの検討及び実施	職員の知識と個別支援の質を上げる
	各セクションの特色の見直し	①現行の支援事例について見直し ②多角的視点で検証しつつ支援方法を確立	多角的視点による個別支援の質の向上

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
新規利用者の確保に向けてのアプローチ	広報ツールの作成及び活用	①パンフレットの作成 ②パンフレットを用いた営業活動	①生活介護事業のパンフレット完成 ②新たな相談支援事業所等との関係性構築
	サービス内容の再考	①サービスの拡充等の検討及び準備	実施するサービス内容の決定
収支バランスの健全化	曜日毎の適正な受け入れ	①「曜日毎の利用状況一覧表」を更新 ②受入可能状況を具体的に検討	登録日増及び新規利用者の受け入れ

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
地域と関わる機会を増やす	地域と関わる新たな機会を検討し取り組む	①隣接する住宅(キャナルタウンイースト)の段ボール庫整理(月2回)	地域の自治会との関係性構築
地域公益に対する知見を広げる	地域公益に対する理解を深める	①新たな地域との関わりを検討	新たな関わり内容の決定

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸市立自立センターひょうご
施設長 大森 陽子

神戸市立自立センターひょうごの基本方針

1. 利用者の人権を尊重し、『心の声』に耳を傾け、寄り添い、共に歩みます。
2. 利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支えるため、『福祉のプロ』集団として個々の専門性を高め、チームワークによる質の高いサービス提供を目指します。
3. 地域の社会資源として、諸機関・諸団体と連携し、地域福祉の向上に努めます。

第5期中期計画のビジョン

利用者・家族・職員が自分らしい夢を持ち、チャレンジすることを応援できる自立センターとなります

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画2年目となる2024年度は、いずれの計画もそれぞれのゴールが見える段階まで到達できることを目標に取り組んでいきます。重点実施項目としては次の3つの計画を挙げました。

1つ目は学習と成長の視点から「職員育成の仕組みづくり」です。昨年度、職員育成プログラム委員会を設立し、運用の手引きを完成させたので、それに基づいた運用を開始します。OJTや研修実施後に受講者へのアンケート・面談を行うことにより、評価・振り返りを行い、プログラムのブラッシュアップを図る計画です。視点のビジョンに掲げた「スキルの習得から、職員の「解る・できる」を増やし、仕事のやりがいに繋がられる」の達成を目指していきます。

2つ目は顧客の視点から「意思決定支援」です。昨年度は、意思決定支援についての考え方、知識を身につけることを目的に内部での勉強会を重ねました。今年度は外部講師による勉強会を通じてさらに学びを深めるとともに、日々の利用者支援において、どうしたらご利用者の意思を尊重した支援を行えるのかを考察し、実践できるように進めていきます。

3つ目は財務の視点から「支援学校との連携強化」です。昨年度は近隣の支援学校3校を2回訪問し、進路担当教諭との顔の見える関係構築と生徒・保護者のニーズ把握に注力しました。その成果もあり、今年度は2名の新卒者をご利用者として迎え入れることができました。今年度も定期的な学校訪問を継続しつつ、新しい取り組みとして支援学校の生徒・保護者向けのオープンセンター（自立センターの見学会・体験会）の開催を計画します。ニーズを捉えた魅力的なセンターづくりをし、それをアピールできる機会を増やすことで、毎年コンスタントに新卒者を受け入れられることを目標にします。

この他にも、ご家族からの期待が寄せられている「グループホーム設立」という大きな計画があります。希望の立地での土地確保という課題をクリアし、達成に向けて前進できる1年となるよう、積極的に動いていきます。

ここに挙げた以外の計画についても、昨年度の土台の上にしかりとした成果を積み上げていけるよう、着実に一つひとつの取り組みを進めていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	知的障害者	2007年4月1日
老人デイサービスセンター（第2種）	共生型通所介護		要介護高齢者	2018年9月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
スキルの習得・向上	・必要とされるスキルの明確化 ・リストアップと見直し	①必要なスキルリストの共有 ②内容の見直し	必要なスキルリストに沿って研修、OJTを実施
職員育成の仕組みづくり	職員育成プログラムの作成と運用	①職員育成プログラムの運用開始 ②内容の見直し	・プログラム運用に必要なリソースの明確化 ・プログラム実施による「必要なスキル」習得率の明確化 ・プログラム受講者の知識、スキル向上
介護技術向上	介護技術に関する研修の定期的な開催	①理学療法士による内部研修の継続開催（年3回） ②法人内事業所の介護技術、導入している先進機器についての情報収集	・内部研修を通じて、介護技術を高める ・将来的に必要な介護技術・先進機器等を見極める
人材確保	福祉の仕事の魅力(仕事していて嬉しい、良かったこと)をSNSで発信	①自立新聞の発行（年3回） ②SNSの更新（月1回）	自立新聞やSNSを通じ、福祉の魅力を発信する

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
業務内容の整理と効率化	業務の整理・業務改善の実施	①業務改善の実施 ②2023年度に取り組んだ内容の見直し、更新	業務の効率化を図る
わかりやすいマニュアルの整備と活用	各グループの業務マニュアルの作成・見直し	①1・2・3グループの業務マニュアルに沿った業務の実施と見直し ②送迎業務のマニュアル作成	一定レベルの支援ができるような業務マニュアルの完成

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
	自立センターのマニュアルの整理	必要なマニュアルの内容の見直し	マニュアルを確認し、内容を見直しする
広報活動の充実	自立センターの活動を SNS で発信	SNS の更新（月 3 回）	日々の活動を発信していくことで自立センターを知ってもらえる機会を増やす

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
意思決定支援	利用者の意思決定支援の実施(思いを引き出す支援)	①職員向けの意思決定支援の勉強会の開催（内部研修 2 回・外部講師研修 1 回） ②意思決定支援についての取り組みの検討と実践	意思決定支援についての学びを深め、ご利用者の思いに寄り添った支援が行えるようになる
利用者・家族の将来の安心	グループホーム運営	①グループホーム見学 ②グループホーム建設のための土地確保 ③職員体制、運営方法の検討	グループホーム建設までの道筋をつける
	未来ノートの内容の共有・見直し	未来ノートの内容の共有・見直し(モニタリング時に未来ノートの「将来の目標」のページを確認)	将来の方向性を家族と共有し、それに向けて必要な支援を行う
高齢化への対応	高齢化に対応した環境整備・改修	1 箇所以上の整備	必要な箇所の環境整備を行うことで利用者が安全・快適に過ごせる

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
安定した収入の確保計画	人員配置計画の策定（増員）	①人員配置体制加算Ⅲ（2：1）の継続取得 ②報酬改定を踏まえた次年度からの人員配置計画の検討	適正な人員配置と加算取得により、収入が安定する
	利用希望調査の実施、利用率アップのための検討（営業日数増加等）	①土曜開所の実施（年 5 回） ②祝日プログラムの継続(祝日の職員体制整備)	年間利用人数の増加

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
長期的な新規利用者受け入れ計画	利用見込みの把握、グループの再編成を含めた新規利用者の受け入れ体制づくり	①グループの再編成検討 ②新規利用者の受け入れ	受け入れ体制を整え、コンスタントに新卒者を迎えらるるようにする
支援学校との連携強化	連携方法の検討と実施	①定期的な学校訪問 ②オープンセンター（夏休み・冬休み）の開催	センターをアピールする機会を増やし、卒業後の進路先として考えていただく

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
地域交流行事の継続・発展	よつば寄席の実施	①よつば寄席の実施（年2回）	よつば寄席を通じて地域の方と交流する
地域企業との関係性の強化	地域清掃、地域交流の実施による地域への発信	①地域清掃の継続 ②神戸マツダでのイベント実施（年1回） ③神戸マツダ前の花壇の整備（年1回）	神戸マツダとの関係強化と地域の方との交流
福祉教育への参画	近隣小中学校との交流	近隣小中学校との交流方法の提案、実施	・職員の地域公益への意識向上に向けた土台づくり ・近隣小中学校との交流方法の提案と福祉教育への参画

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ワークセンターわかまつ

施設長 岩本 康則

ワークセンターわかまつの基本方針

1. 法人の基本理念に基づき、ご利用者のニーズに即した支援を行います。
2. 個別支援計画に基づき、人権を尊重し支援を行います。
3. 就労継続支援施設として、働く喜び、社会人としての役割などを伝えていきます。
4. “人間力づくり” “こころづくり” “ものづくり” ができるよう支援します。

第5期中期計画のビジョン

1. わかまつらしく地域に根を拡げていきます。
2. わかまつらしくそれぞれのステージに合わせ、つながる支援を行います。

2024 年度の事業計画について

第5期中期計画の2年目は、1年目にご利用者の年齢や特性など個々の状況に合わせてニーズを確認し、様々な機関との連携により総合的な支援を行ったケースをフォローしながら、組織の持続可能な運営に向けて、新規利用者獲得に注力していきます。

新型コロナウイルスが5類型に移行し2年目を迎えますが、引き続き感染対策を十分に行い、イベントなど外部での販売にも昨年度以上に積極的に参加していきます。また、感染症だけでなく自然災害時も想定したBCPやその他マニュアルも計画的に更新していきます。

昨年度の工賃向上支援アドバイザーの助言をもとに、焼き菓子など自主生産品の改良を具体化し、自立支援協議会、兵庫セルフセンター等とも連携しながら販売力の強化に努めていきます。一方、従来の下請作業の受注は社会経済の状況から減少傾向にあります。引き続き、新規作業導入に向けた営業活動に力を入れるとともに、紙製品の自主生産品のSNSを使った受注販売を検討し、工賃支給額の向上をめざします。

5年目を迎えるカフェ「まつぼっくり」は地域の方々の認知度も上がってきています。引き続き「認知症カフェ」を毎月第一金曜日に確実に開催するとともに、大正筋商店街の取り組みにも積極的に参加・協力することで、よりいっそうの認知度の向上をめざします。また、まつぼっくりの持続的な運営のために、メニューや販売方法の刷新を検討していきます。

ご利用者の取り組みとして利用者自治会を支援し、利用者満足度調査の結果などにご利用者の声を受け止め、施設整備および支援内容を改善していきます。さらに、内部研修の開催や外部研修の受講により、職員の専門性の向上に努め、「より良い支援」をめざします。

1. 事業概要

開設年月日：2004年10月1日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	40名	知的障害者	2011年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
WLBを推進し、働きやすい環境の整備	有給休暇の取得率の向上	①ノー残業デーの実施 ②有給休暇の取得促進	職員が離職せず、元気に働ける職場になる ※超過勤務を減らし、仕事と家庭が両立できる職場になること
専門性の向上	Web研修を含めた研修に積極的に参加	①法人内・外の研修受講 ②研修内容の共有	職員の専門性が向上すること
積極的な実習の受け入れ	各種実習の受け入れ	①様々な実習の受入	実習を受け入れ、職員が新たな気づきができること

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
各種マニュアル・BCPを定期的に更新	各種マニュアル・BCPの年1回以上の更新	①マニュアル・BCP更新	マニュアル等を更新し、より良い支援ができること
リスクマネジメントの強化	防火・防災、防犯、虐待防止等のレベル強化	①防火・防災訓練の実施 ②防犯、虐待防止等の研修の実施	日頃から災害やリスクの発生に備えておくこと
定期的に第三者評価を受審	第三者評価の受審	①第三者評価受審	事業所の取り組み等を第三者に評価してもらい、見直していくこと
広報活動の充実	定期的な広報活動の実施	①HP更新・わかまつ通信定期発行	わかまつの活動をPRし、地域や作業につなげていくこと

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
個別ニーズに対応し、他機関との連携の強化	ご利用者のステージに合わせた支援の実施	①再アセスメントとモニタリングの実施	再アセスメントの実施により、ニーズ把握ができること

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
作業種目の見直し・商品の改良等により、工賃収入増	新規作業を獲得、わかまつ商品の改良と販路を拡大	①5,184 千円/年 10,800 円/月 ※新規作業の獲得、わかまつ自主生産品の改良と販路拡大による月平均工賃額 15,000 円（新計算式）の足場づくり	・前年度同等額の月額平均工賃 11,300 円（旧計算式）を達成 ・製菓をグレードアップし月平均 15,000 円の足場を作ること
利用者自治会・家族会との連携	利用者自治会・家族会の継続 満足度調査の実施	①利用者自治会の継続 ②家族会との協力 ③満足度調査実施	ご利用者、ご家族の利用満足度が上がること
成年後見制度の推進	成年後見制度の利用者増	①利用者の優先順位を整理し、その優先順位に沿って推進	緊急度の高い方の成年後見制度の利用ができること

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
利用率の向上による収入増	関係機関(相談支援センター, 計画相談事業所, 支援学校等)との連携	①新規利用者 2 名獲得(40 名) ※上半期 1 名、下半期 1 名	新規利用者を獲得し、出勤率を上げて収入増
計画的にメンテナンスを実施	LED 化、老朽箇所への対応	①老朽箇所への対応および LED 化に向けた課題整理	・空調設備の整備(神戸市への相談継続) ・LED 化に向けての準備(神戸市と協議、助成金情報収集)

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
まつぼっくりを地域貢献の拠点とする	認知症カフェの継続・地域イベントへの参加	①認知症カフェ継続 ②地域イベント参加 ③メニューや販売方法の刷新に向けた検討	・認知症カフェの参加者の増加とプログラムの確立 ・商店街イベント参加により認知度向上
関係機関との連携を強化	自立支援協議会、ほっとかへんネット長田との連携	①自立支援協・ほっとかへんネットとの連携	すまいんど部会、長田区防災部会、就労系連絡会、ほっとかへんネット長田へ積極的に参加し連携すること

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 せいれいやさかだい
施設長 岩井 誠一

せいれいやさかだいの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援・サービスを提供します。
2. 小集団において一人ひとりが主体性を発揮し、自己表現できる集団作りを目指します。
3. 企業内事業所としての与えられた仕事に責任を持って取り組み、社会参加の喜びを提供します。
4. 生活介護事業所(友が丘事業所)のプログラムのオープン活用と、地域に開かれたサービス提供を目指します。
5. 親なき後の安心、安全な生活実現を目指します。

第5期中期計画のビジョン

利用者の「やりがい・生きがい・働きがい」を叶える居場所となります。

2024 年度の事業計画について

昨年に引き続き、せいれいやさかだいの事業経営上の課題として新規利用者（定員）の確保が挙げられます。2023 年度に 4 名の新規利用者を迎えることが出来ましたが、安定的な経営を行うためには更なる確保が必要であること、一日でも多く利用してもらうことが必要であることを職員一人一人が意識し取り組めるよう、予算の執行状況等について丁寧な説明と理解を求めつつ職員一丸となって取り組んでいきます。関係機関・学校等への訪問による担当者との関係性の構築、事業所見学会の開催・情報発信を積極的に行い、事業所を選択肢の一つに加えてもらうためのアピールを強めます。

昨年は、企業からの受託作業量の拡大を図り、利用者の「やりがい・生きがい・働きがい」について一定の効果として作業工賃の増額提供が果たせました。今年度も昨年の作業内容・量をベースに、意欲的な作業量の確保と提供を行っていきます。利用者が事業所選択の際に意識されている工賃・送迎・食事・事業所の取り組みについて一層の充実を図り、作業だけでなく農福連携作業では、さつま芋・ジャガイモの栽培・収穫を通して、利用者・職員が新しい経験や楽しみを共有できるよう意欲的に取り組みます。

事業所では利用者・ご家族の高齢化及び重度化がこれまで以上に課題となっています。生活習慣病をはじめ健康への配慮、年金生活による経済面の弱体化や生活環境の変化も大きな課題となっています。各種サービス機関との連携にも積極的に取り組み、一日でも長くその人らしい生活が送れるよう支えつつ、利用者の権利擁護にも注力して行きます。

個々の持つ障害特性を理解するとともに、その利用者に寄り添い、必要な支援・取り組み・サービスを提供し安心して利用していただける居場所作りに取り組んでいきます。支援者はこれまで以上に、利用者が何を求め、何を必要としているのかについて真摯に考え、利用者の声を活動・行事・作業といった具体的な取り組みとして実践します。「やりがいある活動、生きがいを感じる取り組み、働きがいある仕事」を事業所の原動力とし、全ての人が笑顔で過ごせる居場所となることを目標に利用者と共に進みたいと思います。

1. 事業概要

開設年月日：1991年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	10名	身体・知的障害者	1991年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	15名	身体・知的障害者	2005年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	15名	身体・知的障害者	2021年1月4日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
1. 職場の活性化	農福連携の作業参加と可能性の共有	① 農福連携作業の職員連携と年間計画に沿った実行 ア) 除草作業(4, 7, 9月) イ) 玉ねぎ収穫(5, 6月) ウ) さつまい芋の定植(5, 7月) エ) ジャガイモの定植(2月) オ) ジャガイモ・さつまい芋収穫(6, 9, 11, 月)	○職員半数以上の参加により次年度以降の取り組み継続を図る
	職員の責任感と役割意識の向上	① 中期計画での役割について定期報告を行う	○年間2回（職員会議時）
2. 人材育成と成長	(1) Web研修参加（一人1研修受講）の促進と活用	① 一人一研修受講の推進と定着 ② 学びの共有と報告の実施	○一人一研修の参加 ○報告会の実施
	(2) PDCAサイクルを意識した業務の推進と育成	① 全職員対象に半期毎の面談を実施(6, 7, 12, 1月) ② 風通しの良い環境作り	○年間2回（施設長面談）の実施

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
1. 業務内容の見直しと簡略化	(1) 書類・記録の効率化と見直し	① 見直しと書類のピックアップ(4~5月) ② 改善課題についての検討	○見直し書類のピックアップ ○改善(2件以上/年)
	(2) 業務の効率化推進と効果の確認	① 時間内業務遂行に向けた具体的な改善と実施 ② 送迎・掃除・作業準備・通常業務等の手順の見直し	○残業時間の削減
2. マニュアル整備	(1) マニュアル作成・改訂の周知徹底	① 改善を要するマニュアルの洗出し ② 改善マニュアルの作成	○BCP計画の周知と訓練の実施 ○マニュアルによる引継ぎ向上

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
	(2)利用者支援の全体周知と更新の徹底	① 利用者対応・支援方法の具体的周知 (夕礼・会議で随時共有)	○各事業所に於ける利用者支援マニュアル作成
3. 事業所間の協働推進	(1)せいれいやさかだい・GH のぞみの連携強化	① バックアップ機能・サポートの強化	○GH のサポートに対応できる人材育成 (新規1名/年間)
	(2)年間を通した行事・活動・作業(農福連携・屋外作業)の3事業所間の連携による業務推進	① 日常業務に必要な支援体制の構築と見直しの継続 ② w e b 環境を活用した情報共有の継続(終礼) ③ 事業所全体で農福連携・清掃等の屋外作業に従事	○3 事業所間の連携による活動・作業の更なる業務推進

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
1. 権利擁護の実践	(1)権利擁護に係る研修受講の促進と実践	① 支援内容の反省(3月) ② 内部研修の開催(6月) ③ 外部研修の参加(8~1月)	○内部研修実施、外部研修参加 (年間2名参加)
	(2)利用者・家族への応援・支援の強化	① 各家庭の課題共有 ② 関係機関との連携強化	○支援課情報共有 (夕礼にてリアルタイムで実施)
2. 利用者ファーストに立った支援の実践	(1)月額工賃の支給額の向上	① 新規作業獲得と安定供給 ② 栽培経験者の育成 ③ 生産量の拡大	○就 B 対象者の月額10,000円以上の平均工賃支給
	(2)利用者自治会(ぎんが会)の活動支援	① 年間4回の自治会を開催(6,9,12,3月) ② 会議進行・資料・記録作成の実施	○自治会(新役員)の選出・運営のサポート
	(3)利用者・ご家族の満足度向上	① 満足度調査の実施 ② 要望の具体的な対応	○調査の実施、報告書の配布
3. 安心と安全に基づくサービスの提供	(1)専門職(OT・PT・調理師)らとの多職種連携と協力体制の構築	① 法人内部への相談 ② 外部有識者への相談	○年間2回以上 (随時実施)
	(2)看護師配置時間の拡充	① 看護師配置時間拡充の検討 ② 収支試算の実施と検討	○重度化に向けた対応の検討
	(3)利用者・家族への定期的な情報提供・活動報告の実施	① 活動の様子を発信 (家族会資料に添付して報告)	○年間4回

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
1. 定員数の確保	(1) 関係機関等への定期訪問の実施	① 担当者との関係づくり ② 事業所の活動アピール ③ 体験入所者の受け入れ	○ 毎月の訪問実施(年 12 回)
	(2) 内外に向けての情報の発信	① 活動内容等の情報発信 広報誌の発行(2 回/年) ② SNS などによる情報発信 (Facebook 12 回/年) ③ 見学会の開催(3 回/年)	○ 家族、関係者への情報提供 ○ 訪問先への事業所アピール ○ 見学会の定期開催
2. 安定した経営	(1) 加算請求要件の見直し	① 受給者証のチェックと更新の徹底(4, 8, 1 月) ② 加算請求要件の熟読と確認の実施(4, 8, 1 月) ③ 研修申し込み(2 月)	○ 強度行動障害支援者養成研修参加
	(2) 開所日数・活動内容の拡充	① 半期毎の活動内容の検討 ② 年間 270 日の開所	○ 法定日数プラス α の開所

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
1. 地域連携・関係性強化	(1) 地域交流(すくすく・さくら・寿喫茶等)への参加	① 感染対策を講じ、毎月開催の地域交流に(8 回/年)以上参加	○ 地域自治会への事業所アピール
	(2) 地域行事・活動へ積極的役割を果たす	① 地域の大掃除へ参加(2 回/年 6, 11 月) ② 地域自治会で実施される行事へ参加 ・ふるさと祭り, 安心安全コミュニティ像の集い, 地藏盆(8 月) ・梅見ハイキング(2 月)	○ 大掃除参加(2 回) ○ 地域行事に参加
2. 地域貢献の具現化	(1) 地域清掃の実施	① バス停等の地域清掃の実施(1 回/週) ② 自治会館、福祉センターを訪問し交流、障害への理解促進	○ 清掃(36 回/年)
	(2) 高齢化する地域との共生に向けた取り組み	① 認知症サポーター研修開催 ② 市民救命士講習開催	○ 研修開催(10, 11 月)

2024 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームのぞみ
施設長 岩井 誠一

グループホームのぞみの基本方針

1. 一人ひとりの基本的人権を尊重したサービスを提供します。
2. 利用者の障害特性を理解し「その人らしい暮らし」を共に考え支援します。
3. 一人ひとりが主体性を発揮し、生活の場面で生きがいを感じられるよう支援します。
4. 安心・安全な生活が送れる環境づくりと衛生面の提供を行います。
5. 地域の皆さんとの交流機会を求め、利用者の積極的な関わりと参加に努め地域に開かれた関係づくりをめざします。

第5期中期計画のビジョン

利用者一人一人に寄り添い、その人らしく生活できることを支える職員集団をめざします

2024 年度の事業計画について

2023 年度は新型コロナウイルスの影響はあったものの、何とか被害を最小限度に抑えながら事業運営することができました。ご利用いただいた利用者をはじめ、ご協力いただいたご家族の皆さんに感謝申し上げます。

開所して3年、初めて利用者を見送る経験をしました。この経験からGHのぞみが抱える課題（利用者の健康・病気・重度化への対応、支えるご家族の高齢化・親亡き後の対応）について深く重く考える機会となりました。

利用者が、その人らしく健やかに日々の生活を送れるよう、グループホームのぞみは健康面・介助技術面・医療面・食事提供面に対して支援スキルの向上を目指し、より一層 積極的な研修受講の推進と法人内の専門職（看護師・PT・調理師）との協力関係の構築を行い、利用者支援の不安解消に努めます。ご利用者・ご家族により質の高い安心感の提供に励みます。また、従事者不足が生じないよう、支援体制の見直し（人員）について早期対応を心がけます。

バックアップ事業所「せいれいやさかだい」との協力体制についても、これまで以上に職員間の連携を強め、支援情報の共有をはじめ、サービスの安定供給が続けられるよう努めます。

1. 事業概要

開設年月日：2021年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	8名	身体・知的障害者	2021年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
1. 幅広い支援と視野の獲得	(1) 先進的取り組み先、事業所等の見学	① 他法人のグループホーム見学（1回/年）	他法人のグループホーム見学・意見交換等により学びを得る
	(2) 知的障害について理解を深める	① 対象者の障害特性と具体的支援について学習会を開催（1回/年間）	日中活動先の訪問、担当者との情報交換を実施
2. 外部研修を活用したスキルアップ	(1) 外部研修（セミナー等）への参加	① 障害特性の更なる理解に繋げるため外部研修受講を推進	外部研修（セミナー）の受講
	(2) 専門性を伴う研修の受講	① 専門性（介護技術・食事・感染症等）スキル向上に繋がる研修受講（2名）	健康（感染症・介護技術等）に関する研修参加

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2024年度計画	目指す成果
1. 重度障害者対応グループホームとしての成長	(1) 支援及び専門知識の習得（資格取得含む）	① 重度障害者支援に必要なスキルを含む研修受講・自己研鑽の促進	自発的なスキル習得への研修参加
	(2) 建設的な提案と尊重し合う関係づくり	① 職員会議の見直しと充実（1回/月 第3木曜日）	より良いサービスと負担のない支援提供
2. 支援者の役割と連携促進	(1) 業務マニュアルの作成と更新	① 個別支援マニュアルの作成 ② マニュアルの共有	個別支援マニュアルの継続作成・更新
	(2) 支援者間の報連相と連携	① ラインを活用した情報共有の定着 ② ホワイトボードを活用した情報伝達のマニュアル作成	情報共有の環境改善
3. 職員・家族が共有する機会の創出	(1) 家族の集いを開催し利用者支援について共有を図る	① 半期毎の家族の集いの開催（9月、3月）	家族の集いの開催（2回/年間）
	(2) 家族との交流行事の実施（茶話会・食事会等）	① 家族交流行事の年1回の開催（9月又は3月のいずれか）	家族との交流行事の実施

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
1. 利用者の理解促進と支援の実施	(1) 日中活動先との連携強化	① 日中先の見学と活動状況の把握(5 事業所)	連携による支援力向上
	(2) 利用者毎のケースワークの実施	① 利用者毎のケースワークの実施と定着(職員会議にて実施)	利用者 8 名の障害特性と理解促進
2. 健康・医療面のスキル向上	(1) 医療関係の専門職(看護師)の方と勉強会の実施	① 健康に関する(発熱・ケガ等)対応についての共有(1 回/年間)	看護師との勉強会の実施
	(2) 利用者の服薬についての勉強会の実施	① 薬の効能についての把握、情報共有	薬剤師との勉強会の実施

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
1. 居心地と安心の提供	(1) 食事の充実(リクエストメニュー・質向上)	① リクエストメニューの聞き取りと提供(誕生日メニュー) ② 年間予定の提示(誕生日)	食事提供の改善と満足度の向上
	(2) お楽しみイベントの定期開催	① 希望イベントの聞き取りと検討(ビデオ鑑賞会・レクリエーション等) ② 年間予定の提示と案内	お楽しみイベントの開催(祝日等)
2. 環境整備と充足	(1) 週末送迎の拡大	① ガイドによる送迎の定着を受け、緊急時等における送迎の実施に変更 ② 新規利用者の安心感与える安定利用の促進(関係性の構築・コミュニケーション術の共有と実践等)	個別利用日数増と利便性の向上
	(2) 衛生面に関する設備の充足	① 汚物(汚染物)専用洗濯機の設置 ※2023 年度未実施	汚物類の洗濯環境の改善
	(3) 手摺り等の補助具の充足	① 補助具等の検討・提案・設置(必要箇所の検討)	個々の状態に合わせた安全性の向上

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
1. 地域住民への周知	(1) 地域活動(大掃除)の参加	① 地域の年間予定の把握 ② 活動参加への勤務等の調整	地域の方にホームの存在をアピール

重点実施項目	実行計画	2024 年度計画	目指す成果
	(2) 地域自治会への周知と掲示板の活用	① 生活の様子を伝える簡易ペーパー作成又はSNSへの投稿	地域自治会やグループホーム等の見学者受入れ
2. 災害時の備えと地域への貢献	(1) 非常食の確保とフードサイクルの実施	① 非常食の検討・追加購入 ② フードサイクル管理表の作成と周知	災害時の一週間分の食料確保と備品整備
	(2) 災害を想定した訓練等の実施	① 防災・火災訓練の実施 (神戸聖隷オアシス合同)	支援者の防災意識の向上

2024年度 事業計画別表 1(事業目標)

※稼働日数が協定等で定められている事業以外は
法定年間稼働日数で利用率を算出しています

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)		定員 数	単位＝人		単位＝%		単位＝人	
			利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
			2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込
特養	平生園	60	21,243	21,453	97.0	97.7		
"	さくらの苑	29	10,370	10,260	98.0	96.7		
GH	わらしべ	18	6,438	6,493	98.0	98.6		
入所	恵生園	60	21,456	20,754	98.0	94.5	1	0
"	真生園	60	19,209	19,697	87.7	89.7	0	0
"	神戸愛生園	50	16,674	16,554	91.4	90.5	0	0
"	神戸明生園	60	21,077	21,123	96.2	96.2	0	0
GH	グループホームもみの木	5	1,755	1,770	96.2	96.7		
"	グループホームかしの木	7	2,236	2,276	87.5	88.8		
"	グループホームかしの木Ⅱ	5	1,725	1,629	94.5	89.0		
"	めぐみ	6	1,442	1,287	65.8	58.6		
"	せいれいやまて	10	3,170	2,970	86.8	81.1		
"	たいのはた東(定員5人+体験1人)	5	1,715	1,521	94.0	83.1		
"	南落合	5	1,583	1,603	86.7	87.6		
"	アリエッタ北須磨	10	3,191	3,214	87.4	87.8		
"	のぞみ	8	2,492	2,428	85.3	82.9		
"	きたすま	5	1,805	1,786	98.9	97.6		
"	みなみたもん	5	1,746	1,694	95.7	92.6		
"	ふくだ	10	3,539	3,505	97.0	95.8		

短期入所支援事業		定員 数	単位＝人		単位＝%	
			利用延べ人数		利用率①	
			2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込
高齢	さくらの苑	10	3,464	3,475	94.9	94.9
障害	恵生園	3	407	526	37.2	47.9
"	真生園	4	144	85	9.9	5.8
"	神戸愛生園	5	788	802	43.2	43.8
"	神戸明生園	10	810	1,060	22.2	29.0
"	アクシスひょうご	6	2,676	2,601	122.2	118.4

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 (日中型事業)		定員 数	単位＝人		単位＝%	
			利用延べ人数		利用率②	
			2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込
通所	さくらの苑	18	4,723	4,556	84.9	81.6
"	デイセンターひょうご(共生型)	25	253	442	3.8	6.5
"	神戸市立自立センターひょうご(共生型)	60	0	7	0.0	0.0
生活	恵生園	60	16,120	15,763	99.9	97.3
"	真生園	60	14,362	14,714	89.0	90.8
"	神戸愛生園	60	15,134	14,989	93.8	92.5
"	神戸聖生園	60	13,968	13,853	86.5	85.5
"	せいれいやさかだい	25	5,837	5,775	86.8	85.6
"	神戸光生園	57	11,916	12,312	77.7	80.0
"	神戸明生園	80	19,283	19,147	89.6	88.6
"	デイセンターひょうご(多機能型)	25	4,643	4,474	69.0	66.3
"	神戸市立自立センターひょうご	60	13,056	11,841	80.9	73.1
"	トゥモロー	8	1,327	1,423	68.8	73.8
"	インクルージョンひょうご	20	2,695	2,321	50.1	43.0
日中	真生園	5	12	2	0.7	0.1
"	神戸明生園	10	18	19	0.5	0.5
"	アクシスひょうご	6	0	0	0.0	0.0
児童	すまいる	20	3,457	3,453	71.7	72.2
"	らみい	10	1,721	1,687	65.9	64.6
"	エスポワールこじか	10	2,000	1,990	83.7	83.3
"	めぐみ	10	1,504	1,451	55.9	53.7

年間稼働日数	2024年度	2023年度
	309日	310日

市との協定日数	2024年度	2023年度
	241日	241日

市との協定日数	2024年度	2023年度
	241日	239日
	261日	261日
市との協定日数	239日	239日

就労移行・定着支援事業・就労相談 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人		単位＝人	
		就労移行支援				就労定着支援			
		利用延べ人数		利用率②		就職者数		利用延べ人数	
		2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込
定着 和生園	—	—	—	—	—	—	—	24	24
定着 神戸光生園	—	—	—	—	—	—	—	23	34
移・定 ワークセンターひょうご	30	3,957	5,271	49.0	65.1	13	11	347	373
相談 しごとサポート中部	—	—	—	—	—	80	79	—	—
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝円		単位＝円	
		利用延べ人数		利用率②		時間給工賃(平均)		月配分額(平均)	
		2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込	2024年度 目標	2023年度 実績見込
就B 和生園	40	8,691	8,539	80.8	79.1	203	127	17,000	18,093
〃 せいれいやさかだい	15	2,738	2,262	67.9	55.9	83	82	11,000	10,928
〃 神戸友生園	40	7,913	8,132	73.5	75.3	155	150	11,500	11,000
〃 神戸光生園	33	6,222	6,328	70.1	71.0	132	149	13,200	14,900
〃 デイセンターひょうご	15	2,629	2,415	65.2	59.6	141	150	2,578	2,736
〃 ワークセンターわかまつ	40	8,377	8,978	77.9	83.1	122	128	11,300	11,341

居宅介護支援・相談支援	支援内容・対象	単位＝件	
		支援件数	
		2024年度 目標	2023年度 実績見込
居宅 居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	1,006	992
障害 びあほくたん	障害者	353	455
〃 発達障害者支援センター・ランチ	発達障害者	800	800
〃 エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	254	249
〃 恵生園相談支援事業所	障害者	253	231
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	7,200	7,000
〃 しごとサポート中部	障害者	—	—
〃 ひょうご障害者相談支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	8,000	7,900
〃 神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	770	758
〃 きたすま障害者相談支援センター	相談・緊急対応	7,200	7,066
〃 神戸聖隷総合相談センター	相談	646	661

介護予防等拠点施設	項目	単位＝人	
		人数	
		2024年度 目標	2023年度 実績見込
障害 あったかプラザ(飲食店)	来店人数	4,300	4,214

診療所		単位＝人	
		診療延べ人数	
		2024年度 目標	2023年度 実績見込
医療 真生園診療所		1,068	1,068
〃 風クリニック		1,500	1,494
〃 神戸愛生園診療所		3,000	3,200

	2024年度	2023年度
法定年間稼働日数	365日	366日
法定年間稼働日数	269日	270日

注意：利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷(定員数×365日)
②日中型事業	利用延べ人数÷[定員数×(365日-8日×12ヶ月)]

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用

【例】定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合
利用率=1250人÷(20人×(23日+20日+23日))=94.7%

2024年度 事業計画別表 2 (設備整備計画)

施設名	件数No.	件名	内容概略	整備完了時期 (予定)	事業費込金額 (千円)	サービス区分 (財源)	財源科目	備考 (補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
恵生園	1	食器洗浄機の更新	製造より12年経過が経過し、水漏れ等の不具合が発生しているため	2025年3月	1,235	生活介護	介護給付費収入	なし	
神戸光生園	1	神戸光生園(旧館)外壁工事	前回の外壁工事から14年が経過し、クラック等による雨漏りが顕著にみられるため、国庫補助金を活用した大規模改修工事(国庫申請が承認の場合)を予定	2025年3月	30,140千円 (内、9,487千円が積立資産取崩)	就労継続支援B型	減価償却積立資産	国庫補助金	20,653千円
神戸明生園	1	施設内電話機入れ替え工事	施設内の電話機の主装置及び子機の入れ替え工事	2024年6月	3,000	生活介護	減価償却積立資産取崩収入	なし	
神戸明生園	2	旧館1階 調湿換気設備の新設と更新	旧館1階共用スペースの除湿と個室内の換気機器の新設と更新	2024年7月	9,000	生活介護	備品積立資産取崩収入	なし	
神戸明生園	3	設計管理費	施設改修に係る設計管理費	2024年12月	1,000	生活介護	備品積立資産取崩収入	なし	
神戸明生園	4	業務用冷蔵庫・製氷機	厨房用冷蔵庫・製氷機の入替え	2024年9月	2,000	生活介護	減価償却積立資産取崩収入	なし	
ワークセンターわかまつ	1	NTT電話機器交換工事	電話機(本体3台、コードレス3台)、工事費	2024年9月ごろ	1,000	就労継続支援B型	積立資産取崩収入	なし	